

むしのツボウ
ニダンのツボウ

エイソウ

目次

むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ

エイゾウ

はじめに

このチョシヨは キホンテキにイチワごとのよみきりである。だから、どこからよむこともカノウだが、やっぱりジケイレツで いきているわけだから、ジケイレツによるチクセキなどが無いとはいえない（そのため [キホンテキに] といった。）。したがって、そういったジケイレツによるヘンカをもあじわいたいとおもうのであれば、はじめからよむことを おすすめする。

また、ゼンチョ『アルクカラ カンガエル』でロンじたことのシンテンやインヨウがたまにでてくる。くわしくよみたいばあいは そちらのシヨをてにとっていただければとおもう。

ホンチョはすべてかなガナブン（ひらがなとカタカナのコンゴウブン）でかかっている。ゼンチョ（シヨバン、ニハン [かなガナブンによるサンバンをハッコウヨテイである。]）は、すべてタンイツのカナブンまたはかなブンで、タイヘンよみにくいというカンソウをいただいた。そこで、コンチョでは、ニシュのカナのコンゴウブンとした。このホウホウによって タイヘンよみやすくなったとジフしている。タンジュンにいえば、カンジでかかれるカシヨがカタカナでかかれるという ちがいがあるのみである。これによって ななめよみもしやすくなったのではおもう。

イチ

タブン ゲンダイで ゴセンネンまえのくらしかたをしても、ゴセンネンゴのくらしかたをしてもそのジテンのセキムを はたしていれば ジユウなんだろうけど なかなかセキムをはたすのがむずかしかったりするのだろう。だから、ゴセンネンまえのセイカツへとギャクシンカ（ギャクのシンカ [●『アルクカラカンガエル {イカ、『ア』とする}』ニヒャク]）するとタイヘンだったりするのだろう。そういうわけだからせいぜいニセンネンまえとかに しておけばいいかもしれない。

ニ

(アメリカ) ガッシュウコクが「ゲンバク」のケンでせめられるとしたら、ミンカンジン を セントウにまきこんだということかもしれない。グンジンにあてたのなら、センソウだったからしょうがないけど。ニホンジンも「ヘイがにげられない」センソウ (●『ア』ナナジュウハチ、キュウジュウハチ、ニヒャクヨン、ニヒャクサンジュウサン) をしたし、ガッシュウコクも「ミンカンジン」をまきこむセンソウをした。どっちもモンダイだ。

サン

サイキン きにいているのがラーユカレーである。カレーに ヨーグルトをまぜたり、ココナツミルクをまぜたりというのはよくきいたりするが、ラーユをかけてみた。からさがツイカされておいしい。まあ、ギョーザにつかう「ショウユ」と「ラーユ」をリコンさせて、「ラーユ」をつかうといったところか。わたしは「ギョーザ」をタレなしたべるからカレーにラーユをつかってもつかいすぎといったこともない。あまった「ショウユ」はそばにでもつかおうかと。

ヨン

ニジュウネンくらいまえ シィディヤがケッコウあったものだが、シダイにすくなくなってきた。だから、あるシィディを みせでかおうとおもうとクロウすることがある。ザイコをしぼっているみせもあるので、みせにはいっても かいたいシィディが見つからないことがある。それで オンライン (インターネット) ツウハンでかったりする。ハンメン、チュウコシィディヤがふえた。そこであたらしめのをかうとたかいので、ふるいのばっかりかたりする。そういうふるいシィディをかえるようになったのはよいことかもしれないが、やっぱりシンサクをききたいとおもう。オンラインでかうのもいいが、みせでかいからフツウのシィディヤが つぶれるとクロウする。

「シィディがうれなくなった」といわれる。たしかにニジュウネンまえよりかわなくなった。パソコンカンレンのものにケッコウおかねをつかたりするからだ。それでも ヨユウがあればかいきたいとおもう。みせにないから ツウハンでかう。ツウハンでかうからみせにおかなくなる。どちらだろう。

ゴ

サイキンはビデオ「ディブイディ」がサンビャクエンくらいでかりられる。ディブイディがすきなひとにはたまらないだろうが、わたしのすきな オンガクとか おわらいのディブイディはあまりおいてなかったりする。だからしょうがなくかたりするのだが、そう

いうモンクをいわなければサンビャクエンですむ。キュウカのありかたとして、サイキンゴロねをかんがえているので、いいディブイディがあればとおもっている。コウホになっているのがホラーである。こむずかしいニンゲンカンケイなどをかんがえずにすむから。

ロク

(おとをならす) ガツキネツ (ガツキずき) というのもこわい。ギターをヨンホンショユウしているが、さらにかいたくなってしまうりする。ガツキはかさばるから おいておくとヘヤがせまくなる。だからあまりかっちはいけないはずだ。しかし、うっているのをついついみてしまう。ガツキネツというよりショウヒヨクなのだろうか。しょうがないので、オンラインサイトなどのかいものボタンににせてつくったにせもののかいものボタン (チュウモンがセイリツしないから、しはらいもしょうじない [●『ア』ニヒャクヨンジュウゴ]) だよりである。それをおしてガマンしている。

シチ

あるとき、アイスクリームとおもってかいものをしてたら、ジツはそれがアイスクリームだったことがある。なにがちがうのか。こたえはカンタン、「アイスクリーム」はオンドがたかいととけてしまう「アイス」、「クリーム」であるが、もうイッポウの「アイスクリーム」はシツオンテイドじゃとけない。「ひやした」「クリーム」というわけだ。むかし、「アイス」のテンプラがあるときいたことがあるが、その「アイスクリーム」をつかえばできるんだらう。

ハチ

ビーフジャーキーはすごい。あるキカンにはホゾンができるし、あじもよい。ニホンではスルメとかひものがあるが、ニクをつかったものはメイジジダイくらいからオウベイのギジュツをつかってつくられるようになったのだから。チュウゴクなどのチュウカケンではホシニクがあるのにである (ドクトクのコウシンリョウをつかっていて、それがすきなひとにはわるくないとおもう)。わたしがこどものころはおかゆがきらいだったが、おかゆに ホシニクを こまかくしたものをのせてたべる (ニホンフウでいえば、さけのほぐしみだらうか) のは、いまなら いいとおもう。

キュウ

ガイコクにあって ニホンではみないものという、コーヒーあじのアイス（このばあい、「アイスクリーム」である。）なんかみない。あれはおいしいのだが。そのかわり、ニホンでは、マッチャのアイスがあつたりする。これもおいしい。ギョウニクがのつかったチュウカそばもニホンではみかけないが まあそれはいいだろう。さきにかたつた「ホシニク」もみないきがする（チュウカケンでつくられたニクのちょうづめ [オウベイフウにいえばソーセージ] は たまにみかけるが）。チュウカガイなどで うっているのだろうか。

ジュウ

サイキン カンワジテンをひかなくなった。ホンはケッコウよんでいるが、それほどしらないカンジがでてきたおぼえがない。という、シュツパンシャのホウで、「カンジ」をつかうのにセイゲンをかけているのか、となる。だからあるテイドの「カンジ」がわかればほとんどのホンをスンナリよめてしまうのだろうかとなる。そういうのをきにしないホンというのもおもしろそうだが（わたしのホンは「カンジ」をつかわなさすぎてよみにくいらしいが）。

ジュウイチ

「(オウベイでよくたべる) パンキジ (パンのカンセイヒンのてまえのザイリョウである) のきのみ (たとえば、「くり）」とか、「あなの なかのカエル」とかいうリョウリがある。なんだそれはであるが、ほんものをキタイしてはいけないのかもしれない。カタホウは、「ドーナツ」というやつである。これは、シャシンをとるときにいう「はい、チーズ。」というかけごえ（●『ア』ヒャクキュウ）とおなじで、もとがなんだかわからなくなってしまっているイチレイかもしれない。「ドーナツ」は「パンキジのみ」で、「チーズ」は「ポーズ」のことである。

ジュウニ

わたしがかうシィディといえ、むかしかったことのあるアーティストにほぼかぎられる。たまによさそうなえ（ブックレット）をみつけては そのシィディはわたしのこのみのものだと スイテイしてチョウセンすることがあるが、むかしかったことのあるアーティストのものだけでもソウトウスウえらべてしまう。ところで、なんでニホンのアーティストのシィディはブックレットのヒョウシにシャシンをつかうのだろう。いいえかき（ガカ）がないのか。「え」だこのみのものをえらべば、このみのオンガクにあつたりする。ちかごろわたしはシィディをかうリョウをおさえているが、オンガクもシゲンだから（ムゲンではない）まあダイジにしようとおもっている。

ジュウサン

ゆずがいろいろいてきた。もうふゆのはじまり（ホンがでるところからいえば、キョネンのふゆ、イッサクネンまえのジュウイチガツである。）。どうするかあまりかんがえていないが、まあ、ゆずスイ（ゆずジュースをみずでわったもの [●『ア』ニジュウハチ]）にするか。リョウリにつかうのもいいだろう。ゆずの「す（『す』ではないが）」のものとか。つけものにもいいみたいだし。このゆずのきは、ニネンまえにきられてきずついてきたから（●『ア』ハチ、ニジュウハチ、ニヒャクジュウロク）もうちょっと そっとしておこうとおもっている。

ジュウヨン

もうふゆがちかい。ゆきおろしのヨウイもしようとおもう。（よくゆきがふる）ゴウセツチタイではあたりまえのようだが、わたしのいえのハウでやると、「えっ」というかおをされる。しかし、おもみがあるのだから、おろしてやったハウがアンシンだ。おとしにそれにきづいて、キョネンからやりはじめた。

イチバン やねにのぼりやすいところに ショウコウグチをつくり、そこからキャタツをつかってやねにあがる。かといって ゆきのときには おいそれとのぼらない、やねにのつても、とけたゆきで すべてあぶないからだ。ショウコウグチから ゆきをおろしていく。キョネンは ゆきおろしに二、サンジカンかかった。でも、それでよしと。ことしのはるまえはゆきがすくなかったが ことしはどうだろう。

ジュウゴ

ひとはこたえをとおくにみつけたりするが、アンガイみぢかなところにあったりする。わたしはコウエンでねそべったりするのがすきだ。ところがわたしのいえのハウでは、そういうことのできるコウエンがないとおもっていた。だから、トウキョウトナイのコウエンまででかけていったものだ。しかし、サイキンになって、いえのちかくにいいコウエンをみつけた。そこなら ジュウブンねそべられるし、カンタンなキウギ（たまあそび）などもできる。ニジュウネンくらいまえにそこはできた。そのころ、トウキョウトナイのダイガクが、そのコウシャをトウキョウコウガイに たてていた。そのときには やっていたセツケイなのだろう。ひろびろしているのがトクチョウだ。わたしがかよったダイガクもやっぱりそのころにコウガイにコウシャをつくった。そこもひろびろしている（ちかごろはダイガクを トナイに シュウヤクして たてるのがはやっているらしいが。）。さすがに ボコウに そうやすやすねそべりにいけないが、ちかくのコウエンならそれはできる。ことしは、ホンをよみにそこにいった。すずしいキセツにはカITEキなので、またいきたいとおもう。

ジュウロク

おとしぐらいからコンビニエンスストアで、コーヒーをうりだすようになった。アイスコーヒーもめるし、よくできている。しかし、そんなにたかくないとはいえ、ナンバイものになってしまうと、ケッコウなキングクになる。わたしも イチニチにゴハイとかのんでいたので、シュッピをへらそうとかんがえ、「むぎちゃ」をドウニユウした。むぎちゃだとヒャクエンで ニジュウゴハイのめる。だから サイフも なんとかかからにらずに すんでいる。

ジュウシチ

ベツに「かみ(さま)」はヒテイしないが、わかいころは、なぜ チキユウがまわっているかセツメイできなかつた(そのセツメイは、●『ア』ヒャクロクジュウサン)。そういうバカになんかわるいことをふきこめば、いい(よくないが)キョウキになっていたかもしれない。だから、なんかをふきこまれても、「わからない。」といい、わかるまでまつのがかしこいとおもう。たしかに、だれかにきけばおしえてもくれるだろうが、まあ、そのひとに「でしいり」するようなものだ。

ジュウハチ

そういえば、しばらく(ふででモジをかく)シュウジをしていない。ロク、シチネンまえ、「ジコシホンヒリツ(ショウバイでの ジギョウシャのシュッシヒリツ)をおおきくする」とかいたが、まあ、それはすこしづつタッセイしている。でも、ジをかくのは、レンシュウしなかつたのでへたなままだが。

ジュウク

むかし、「ブブンテキ(ゼンタイテキでなく)なヘイワをみとめるか」というといをかんがえていた。なんかおおきなことをかんがえているからわかいとおもうのだが、それぞれのドリヨクではないかといまはおもう。「ブブンテキなヘイワ」じゃなくて、「ヘイワシサン(ザイサン)」があると。それぞれの「ヘイワシサン」をどうそれぞれがあつかおうがそれはキホンテキにジユウであろうと。いってみれば、「ジユウヘイワシュギ」だ。イチバンはじめに かんがえたそのころは、しごととはコウムインが いいのではとおもっていたりしたのだが。

ニジュウ

「なんで いくているのか」ととわれたとき、「なぜ」というイミなら、「なにかをたべるから」とこたえ、「なにが」「いきさせるのか」なら、「ブッシツがうごけるから」とこたえる。そのこたえだと、もし、ブッシツがうごかないようだったら、「いきられない」んだろう。たとえばまわりのオンドがひくいとかが（それだとブッシツのジョウタイがコタイばかりになる）。そういうブッシツが「うごける」ジョウケンがあるからいきられると。エキタイやキタイだとブッシツはうごけるカノウセイがある。だからタイヨウからとおいカセイより、スイセイ、キンセイのホウがセイブツはみつきりそうだとおもうが、そういう、エキタイセイブツとかキタイセイブツはソウテイガイなのだろうか。

ニジュウイチ

（セイジカをきめる）ミンシュセンキョはシジョウ（とりひきがなされる）シュギでいいかもしれないが（タクサン「うれた」ひとがかつ）、イッテイスウの「コウバイ（というか）」にいたらない（「かわない」）ひとができてくる。それでもなんかのセイトウをシジしてりゃいい。どのコウホシャもセイトウもシジできないとすれば、そのひとがリッコウホするのがダトウかとおもうが、ゲンジョウのセンキョは、トウヒョウにいかず、『センキョ』がないことにする」にトウヒョウできるということがすごい。そういうひとたちがふえたらどうするのだろう。

ニジュウニ

はるにニラのはながさき、あきにはたねができていた。イチネンセイのショクブツっていうのはそんなものだろうか。しかし、モヤシははながさいたが、どうも「たね」はカクニンできていない。

ニジュウサン

「ジブンらしさ」をツイキユウするなら、いまのニホンでは「ニホンセイ」のたべものをたべるヒツヨウがあるかもしれない。モチロン、ニホンジンドウシのケンカもあるだろうが、すくなくとも「ニホンジン」であろう。もっと「ジブンらしく」なりたかったら、あなたのいえのにわにはえ、かつ、ほかのだれもたべていないくきでもたべるといい。それは、あなたしかたべないから、すなわち「あなたらしい」。でも、フツウの「ジブンらしさ」をもとめるのだったら、ほかのひとでもたべているものをたべよう。あなたがジミントウシュギシャだったら、「(アメリカ) ガッシュウコクセイ」のたべものもたべていいのだとおもう（そのわけは、●『ア』ロクジュウサン、ヒャクゴ、ヒャクロク、

ヒャクゴジュウキュウ、ヒャクロクジュウロク)。

ニジュウヨン

わたしがわかいころは、シツギョウシャみたいなかんじだったので、まあそれはそれでよかったが、いまは、シツギョウしているところなので、「シツギョウシャのきるようなフク」はきていない。ロックバンドのハダギ、ブランドロゴがはいったハダギ、スポーツものの、サーフケイのなどいろいろきていたようなきがする。でもいまは、ハダギでひとまえにしようとはとくにおもわない。

ニジュウゴ

やすうりヨウフクやがワダイになったりする。いまではセイサンだけでなく、ハンバイモウもカイガイでのぼしているとか。そのキョウゴウテンもふたつほどあるようだが。わたしのいえのちかくにそのみせがユウメイになるまえからテンポをかまえていたからそのヘンカがわかる。そのトウジはガッシュウコクサンのブランドヒンをまじえてうっていた。フクのいろづかいなどがジミなものをうっていたとおもう。そのみせがあかぬけてしまうのだからおもしろい。まあ、ドリヨクなのだろうが。

なんかいかチノパン(ツ)をかいにいった。ベンリなようだが、そのみせのおかげで、ニホンセイとかガッシュウコクセイのフクをかいづらなくなった(チュウゴクセイのやすいフクがうれるからそのたのフクをあつかわなくなった)っていうのはかんがえものである。

ニジュウロク

リサイクルのツゴウでゴミをブンベツしなければいけない。とはいってもゴミばこはひとつだから、しょうがなくゴミぶくろにまとめたりする。ゴミばこをふたつにすればカイショウされるモンダイであるが、ふたつもおくとあきクウカンがなくなってくる。いいカイケツホウをさぐっている。ゴミばこをたてにチョコレツにおくとか。

ニジュウシチ

パソコンのあたらしいソフトがでた。サンネンにイッカイぐらいあたらしいものがでるから、サンネンぶりといったところだろう。わたしのパソコンでもそのあたらしいソフトはつかえるらしいが、そのほかのソフトをサイシンバンにしないといけないとなるとちょっとまってくれといたくなってしまう。もっともよくつかうソフトはふるいもの

だから、ふるいパソコンでうごかしているのだが。そういうカンテンからいうと、サイシンバンをドウニュウしてしまっても いいのかもしれない。むかしのパソコンはたびたびエラーがおきていたが そのテンは カイゼンされているから いいとおもう。

ニジュウハチ

ことしはなつにコウコウヤキュウをみにいった。キュウジツだとケッコウなキヤクいりだ。しあいにかちつづけるといわれる「コウシエン」にいけるのだが、わたしのボゴウはそこまでかちつづけられなかった。いいセンまではいったが。

ニジュウキュウ

パソコンをもちあるくのはケッコウなロウリョクである。そこで もちはこぼないですむジブンのパソコンというのをキカクした。パソコンは なかのクドウキロクソウチをつかってキドウする。そのクドウキロクソウチをそとづけにして、そのなかに、キノウのゼンブをいれてしまい、そのソウチだけをもちはこぶようにかんがえた。しかし、ためしてみると、そとづけクドウキロクソウチからのキドウはできなかった。ベンリかとはおもうが、ソフトウェアがうれなくなるからか。

サンジュウ

フロイドセンセイ（セイシンブンセキをはじめたイシ）は、「ファルス」についてかたったとされるが、そのリロンをオウヨウするようにとあるセイヒンができています。ニホンでは、「おとなのおもちゃ」といわれるが、タブン、フロイドセンセイのコウセキだろ（●『ア』ヒャクジュウサン）。

サンジュウイチ

こどものころよくテレビゲームをやっていた。こどものシセンからいうと「おもしろい」からそうモンクはないのだが（モチロン つまらないゲームもあった。）あるテイドとしがたってみると、よく だれかのショウバイにのっていたともおもう。ゴセンエンとかすると こどもにとってはやすいキングクではない。ショセン、あるガメンに えがでるあそびだ。そのガメンに ヒョウジされたナイヨウと ジッサイのセイカツとはなにもカンレンがない。そんなあそびをよくやっていたとおもう。たまにはいいかもしれないが、「ゲンソウ」からときはなれたのにまた「ゲンソウ」にかかわろうとはおもわない。「ショウギ」ゲームとかならいいが。

サンジュウニ

あるマンガ（アニメ）にでてくるあるひとがたのキョダイなセントウヨウのキカイは、ゲンダイの「ブツゾウ」といってもよいくらいニンキがあつたりする。ジッサイそのおおきなモケイが、トウキョウのリンカイブでコウカイされたらしい。それが、ニューヨークにあるおおきなゾウをちいさくフクセイしたゾウのちかくにおかれたものだからおもしろい（ニューヨークのゾウも「ブツゾウ」かもしれない）。

そのキカイのモケイをみにえらくひとがあつまったらしい。ほんもののブツゾウはみにいくひとはいるが、マンガででてくるなにかのように、「コスプレ（フンソウ）」をするひとはいないようだ。それなりにシジをあつめられるとおもうが、ほんもののブツゾウを「かたれる」ほどのキョウヨウがないのだだろう。わたしだっていないが。

サンジュウサン

デンチシキのワープロはないみたいだが、デンチシキのたよなものハッケンした。ポケットピーシーである。カンデンチでうごき、インサツはできないが、ブンショサクセイやヒョウケイサンができる。そういうのをみつけたのでかってつかいはじめた。パソコンだと、シリョウをかたてにうちこむのはタイヘンだが、ポケットピーシーだと、シリョウをキカイのしたにおいてうちこめばいい。わたしはこれがきについて、ブンのうちこみなどはこれをつかっている。サイキンはこのつくっていないようだが。

サンジュウヨン

ジカンを「エル（アルファベット）（ロコモティブ）」ではかるとしたら、キオンがとてつもなくひくくなれば、セイブツはウンドウが（つまり、キタイ、エキタイがトウケツして）テイシされるだろうから、いきられない（●『ア』ヒャクジュウゴ、●ホンショ[イカ ムヒョウキ]ニジュウ）というかジカンがそのコタイについてはながれない。だから、ニンゲンは（いきられる）うごける、つまり「エル」であるが、きびしいジョウケンでは「エル」にはならない。

ニンゲンのイッシュヨウをかりに「エル」とすると、そのナイヨウは、ニジュウヨン（ジカン）かけるサンビャクロクジュウゴ（ニチ）かけるハチジュウ（ネン）になる。ケイサンすると、ナナジュウマンハッピークである。このスウジを、ウンドウのおそいジョウケンでかんがえてみる。たとえば、ハチわりのはやさだったら（さむいところなどで）、「エル」はドウイツジョウケンとしてかわらない（ウンドウのソウリョウはかわらない）が、ソウリョウがナナジュウマンハッピークとしても、そのウンドウ（ソウリョウ）をカンリョウするのに、ハチジュウナナマンロクセン（ヒャクサイ）かかることになる。つま

り、テイオンでセイゾンしたほうが、ウンドウのソウリョウはかわらないとしても、ニジュッサイながくいきられるカノウセイがある。つまり、さむいくにのホウが、ながくいきられるということである（ジッサイ みなみのくによりキタのくにのホウがながいきである。）。

サンジュウゴ

「プロ」ということばも ガイコクからはいつてきたとおもう。「プロフェッショナル」というイミがおおいとおもわれるが、「プロテスタント」かもしれないし、「プログレッシブ」かもしれない。だから、「あなた『プロ』でしょ」とかいわれてウカツにこたえと、「あいつはハンタイハだ。」とかいわれかねない。よくイミをカクニンしてこたえなければならぬ。それか「『ニュートラル』です」とかいえばいい。

サンジュウロク

あるトシのことを「ニューヨーク」という。そうか「あたらしい」から「ニューヨーク」だ。じゃあ「ふるい」「ヨーク」もどこかにあるのだろう。そうやってレキシをまなんていく。

サンジュウシチ

アンガイ、なんかのギロンってサイゴまできくヒツヨウはないかもしれない。ギロンしているサイチュウのおもしろいロンテンだけ ハイシャクして しごとにもどるのがいいかもしれない。ニンゲンひとりでは やることはかぎられているのだから。イッコ ケツカをだしたらまたギロンをきくとか。ずっと「ギロン」しているひとはすごいとおもうけど。

サンジュウハチ

セイジカが まるばつセンセイのセツをインヨウしてかたったけど、まるばつセンセイはそれはちがうといいはじめることもあるだろう。そうすると、トウヒョウシャからの「シジ」がわるくなるから、セイジカはむかしのことばとか、しんでしまったひとがセイゼンっていたことをいえばアンゼンだ。しかし、そこに、「レイコン（たましい）のフメツ（なくなる）」みたいなかんがえがドウニュウされると、そういうこともいえなくなる（レイコンにヒテイされてしまうからだ）。そうすると、ゴジブンのことばでいいはじめるのだろうか。そのホウがセイジカのシツがよくなるような。すくなくともセキニンテンカはできなくなる。そういうわけで、セイジカのシツをあげたきや「レイコンのフメツ」をドウニュウすればよい。

サンジュウキュウ

サイキン、ホンだなのセイリをして、なにもないという「クウゲン（からっぽというシゲン [●『ア』ニヒャクニジュウキュウ]）」をカクホした。でも、それではちょっとヨユウができただけなので、ほかのホンをかっていれてしまえばすぐにうまってしまう。だから、からっぽのホン（ホンがたのノート）でもかってこよかとおもっている。そのなかみをかきこんでいけば、「ホン」になる。もうふたつほどシッピツがきまっているので、からのホンをふたつつくればいい。そうやってジブンのホンがホンだなにはいっていく。

ヨンジュウ

「あたらしいシホンシュギ」というのもあるのだろう（ジツはふるい「シホンシュギ」かもしれない）。ある「(みどりのはっぱをもつ)き」がおしえてくれた。しかし、ニンゲンが(わたしが)そのあたらしいシホンシュギになれないために、むかしながらの(イッパンテキな)シホンシュギにあうようにチョウセイしようとしたりする(●『ア』ニジュウキュウ、ニヒャクジュウニ)。

「あたらしいシホンシュギ」とはなんだろう。としよりがかねをもつというのはかわらないが、ちいさいこどももゲンキというかんじのものだ。としをとるとネンキンがもらえてさらにゆたかになるというのはいせいでかえれないかぎりかわらないが、ちいさいこどもがこづかいをもらってかそれなりにハンエイするというものだ。たしかに「こどもてあて」というのはある。そういうのをつかって、こどもがジブンのポケットマネーでガクヒをはらったり、シヨクヒをはらったりということもそうかもしれない。ただ、ニホンジンのばあい、あまりこどもをダイジにしないブンカがあるらしいから、むずかしいだろう。

ヨンジュウイチ

「かんがえる」とよくいうがそれはアンガイかなしいことばかもしれない。「カン」がえられたのであるが、それを「かえて」しまうということでないか。だから、「かんどおり」とか「かんすすめ」とかだったらかなしくないのではないだろうか。

ヨンジュウニ

ストーリーという。これには「ものがたり」というイにくわえて、「(たてもののたかさ

による) カイ」というイがある。だから、あるカイソウでのまとまりというガンイがあるのだろう。だから、そのひとにあわないストーリーがある。デパートでかんがえれば、サンカイのフジンフクうりばはわたしにはあわないとかだ。デパートでなくても、とくにカイキュウシュギなら (ニホンではイチオクソウチュウリュウといわれるが)、それぞれのはなしをもつだろう。だから、ガイコクセイのコウキュウヒンというのはショミンテキではないストーリーをもつのだろう。イチジキやたらとコウキュウヒンをかうニホンジンがいたらしいが、まあタショウそういうストーリーにふれることはできても、ほかのコーディネートができていなかったのではとおもう。

ヨンジュウサン

コウジョウなんかではニジュウヨジカンソウギョウをしている。なぜはじめたかはセイカクにはわからないが、コキヤクにはやくセイヒンをとどけたいからとかキカイをレンゾクでつかいつづけたいからとかなんだろう。そうするとシンヤにはたらくニンゲンもヒツヨウになる。そういうひとがいないとニジュウヨジカンソウギョウはなりたたない。ショウテンもニジュウヨジカンエイギョウをしていたりする。いつでもかいにいけるのでベンリだ。しかし、なぜニジュウヨジカンガッコウがないのか。ニジュウヨジカンソウギョウやニジュウヨジカンエイギョウのキギョウではたらくロウドウシャがいるはずなのに。かんがえてみれば、シンヤにあつまるショウニンズウをあいてにジュギョウをやるのはヒコウリツである。だからそういうジュヨウは、オンライン (ツウシン) がみたすのであろう。

ヨンジュウヨン

「レイセン」とかいったりする。まあ、ケイヨウテキなことばかもしれないが、ジッサイにそうなるとやっぱりさむいのだろう。ニセンジュウニネンのふゆはさむかった。あるところでは、そのてのアニメエイガができるほどさむかったのだろう。ただ、ニジュウネンほどまえ、「ロウドウカンレイキ」みたいなことばがあった。いうホウはあまりきにしないようだが (わたしもおなじことをしているカノウセイがある。)、そのことばをブンカイして、「カンレイキ」になったらたまらないとおもう。どうしてそういうことをいうのかであるが。たまにそういうひどいことばにでくわす。

ヨンジュウゴ

「デザート」とはむかしよくきいたものだ。しかし、サイキンはそのてのものを「スイーツ」というようだ。たしかにそのホウがセイカクなようなきがする。イッタイいまではなにも「デザート」というのであろう。「デザート」は「コウロウ (よいつとめ)」という

イミがある。あまいカシなどは、まったくひとのショクヨクをみたす「コウロウ」をするものであり、またそれをショクするひと「コウロウ」をなせしものがふさわしいであろう。たいしていいこともしないのに、あまいものにくらいつくというのがいまのリュウコウで、それなら「スイーツ」にしようとかれかがかんがえたのではないか。

ヨンジュウロク

きずついたゆずがみをつけた（●ジュウサン、『ア』ハチ、ニジュウハチ、ニヒャクジュウロク）。キョネンもわずかになったのだが。みをとって テキトウにきってみずにいれた。イチネンハンぶりのゆずスイ（●ジュウサン、『ア』ニジュウハチ）。ちいさいみでつくったときはほんのあっさりあじだったが、いろづいてからのケッコウあじがする。ほんのひときれでも あじがする。いまのところふたきれで つくっているから まだまだたのしめる。

ヨンジュウシチ

たべものを くちにいれるとイにおちる。そこから ショウカされるというのが フツウだ。もし、ニンゲンがさかだちをして セイカツするようになったらどうなるか。たぶん「おもさ」のモンダイで、くちからたべものをいれても、イのホウにいかないのではないか。じゃあどうすればいいか。フツウにくらしているばあいとギャクのながれをかんがえればよいのでは。ただ そうすると、タイナイをとおってきた たべものを サイゴにあじわうことになる。それで、くちからだされる たべものは「うんこ」とギャクのながれだから、「こんう」ということにする。それをだすまえにあじわうのはゴウモンのようなきがする。ニンゲンには（ニンゲンだけではないとおもうが）できにくいこともある。タブンできなくはないがやらないのだろう。

ヨンジュウハチ

「サバサバ」している というのもとはガイコクゴでないか。フランスゴにそういうことばがある。「ゲンキゲンキ」しているというヤクになる。やっぱりエドジダイとかにはいつてきたのだろうか。

ヨンジュウキュウ

キュウジュウネンダイ、レイネンダイに「セルフサーブ」のみせがふえてきた。ちょっとしたショクドウにはいるといくらかでのみものを「セルフサーブ」することができる

というメニューをえらべることがおおくなった。「セルフサーブ」によりテンインのロウリヨクがへり、カカクもやすくおさえられるのだろう。そのメニューがはじまるまえよりイッパイのカカクはやすくなったとおもう。ただ、テンインにもってきてもらいたいときもあるので、センタクできるといいとおもう。

カテイでだすごみのブンベツも「セルフサーブ」になった。ゴミシヨリヒがやすくなったというのはなしはきかないが、そのブンやすくなっているのだろう。(ロウゴの)ネンキンなんかも「セルフサーブ」にしたらうけとるブンがふえるか、ギョウセイのヒヨウがへるかもしれない(カクテイキョシュツガタのネンキンがあるが)。イリョウホケンもそうだ。ただ、ロウドウリヨクかおかねをださなきゃならないが。

ゴジュウ

「センギョウシュフ」がへっているときく。そうすると、カジをするジカンがすくなくなるだろうから、「カジ」のシツヤリョウがおちるとかんがえられる。また、ガイチュウをするようになるだろう。カセイフをやとうということではなく、ソウザイをつくらずかっけたり、こどもをどこかにあずけたりというようにである。そうやってやくわりのセンモンカがすすみ、カゾクのやくわりはおかねをかせぐだけになるかもしれない。

ゴジュウイチ

(たべる) ショクがみだれると、(ビョウキをなおす) イリョウにかねがかかることになる。タブン、ニホンジンなんてイリョウにかねをかけすぎだろう。コジンのカンテンから見ると、そんなにイリョウにかけているきはしないが、ホケンだ、ホジョキンだではらうガクがひくくおさえられるからだろう。ジッサイはケッコウなガクがかかっている。ショクがみだれるのも、やくわりのセンモンカがすすめばしかたないかもしれない。ショクというニンゲンのもっともキソテキなこと「ガイチュウ」するからである。いっそのことメニューのセンタクまでセンモンカにまかせてしまえばいいが、さすがにそこまではできないであろうから、エイヨウのジョウタイがよくなくなるのであろう(そういうブブンはセンギョウシュフがよくやっていたのだとおもう)。ニホンのわかいひとそうだが、ハッテントジョウコクなどで、そういうシツパイをくりかえさないようにとおもう。そういつつ、わたしもガイチュウをしているのだが(エイヨウはかんがえています)。

ゴジュウニ

こどものころかったテレビゲームキは、「クロウ」だったのではないかとおもう。あれにシュウジユクしたところで、ゲンソウしかのこらない（コウウンにも「メイジン」になれたところでたいしてかせげるとはおもえない。）。ホンでもよむべきだったのだろうとおもう。ただ、そういう「バカ」なわかものは、ロウドウシャとしてはつかいやすいのかもしれない。ただ、そのゴに「ジュケン」とかあったから「バカ」ではなくなっていたかもしれない。それもかんがえると「チュウトハンパ」だ。としをとってくと、わざわざクロウはかってきたくない。そういうわけでわたしはこのごろテレビゲームをやっていない。「クロウはかってでもしろ。」とだれかがいっていたのをおもいだすが（「わかいころの〜。」だったかとおもう。）、そんなのをわざわざかわなくても、ほかのクロウがある。

ゴジュウサン

ヨーロッパでは、ローマのシハイからドクリツしてくにをつくり、やがてあらそいはじめた。そういうレキシをかんがえる（さきのシテキどおり、「かんどおらせる」といったホウがいいかもしれない。[●ヨンジュイチ]）とニホンもチホウブンケンをすすめるとあらそいはじめるのではとおもう（おきなわのベイグンキチでもめているが、あれを「したることか」というようになったらもうドクリツさわぎだろう）。すでにあらそったレキシはある。あらそわないようにうまくやるのがダイジなのだろう。そういうしくみができるかというのがチホウブンケンのカダイなのだろう。

ゴジュウヨン

レキシジョウ（チュウゴクシ）でフホンイなしにかたをしたひとがいる。アンサツされるというのはわりとよくあるはなしだが、これからはなすひとはあるくにのオウにジサツをめいじられたという。

そのくにがあるベツのくにといくさをしてかち、そのくにをシハイした。しかし、そのシハイされたくにのオウがトクをつむのをみて、やがてまたあらそいになるだろうことをあるショウグンはシハイがわのオウにシテキした。しかし、シハイがわのオウはそのことばをうけいれず、そのほかのくにのセンソウにカイニューする。それでもそのショウグンは、オウをいさめるがオウはあらためようとしない。そして、やがてうるさがったオウはかれにジサツをめいじる。ショウグンはそれをきき、ジシンのソウギのジョウケンなどをいいのこすが、オウはそれにいかり、そのショウグンのなきがらをかわになげすててしまう。

ニホンジンは、いたいときに「うう」といったりするが、そのショウグンのセイもそれとおなじだ。チュウカケンでは、まいとしあるジキにそのショウグンをまつっている。イジョウがそのショウグンののはなしだが、ジカンがあったら、「ああ」ショウグンののはなしもさがしてみたいとおもう。ショウグンかどうか、ジツザイしたかどうかはわからないが。

ゴジュウゴ

ちかごろは、なにかのサギョウをおえるときに、～を「ソツギョウする」といういいかたをするひとがいる。しかし、「ソツ」というのは、ゴリンジュウのイミがある。そのひとたちがいうのは、「ギョウ」をおわらせてしまうというイミだろうが、ガクモンや わぎや ダンタイをシュウソクされてはこまるメンがある。こういうかんじだから、ニホンジンはガッコウや そのガクセイセイカツを すんなりと「ゴリンジュウ」させてしまうのかもしれない。せめて、「わたしにかぎっていえば」「ソツギョウしました。」とかのシュゴや セツメイがあるといいとおもう。どうも「～を」というのにジュウテンがおかれているように おもってしまう。

ゴジュウロク

「ガシンショウタン（きのまきのうえにねて、ドウブツのきもをなめる）」のことをしらべていたら（このはなしは、ゴジュウサンではなしたひどいしにかたをした ショウグンがおそれていたくにのオウがしていたことのビョウシャである。）、あるショモツによると、「ギョウタン（きも [ドウブツの] をあおぎ）ショウタン」であった。どうも、「ギョウタン」とか「しおタン」があたまをよぎってしまうのがなさけなくおもう。ちなみにこのばあいの「タン」はエイゴである。

ゴジュウシチ

（アメリカ）ガッシュウコクとのコウショウで、ニジュウネンほどまえニホンセイフはコウキョウトウシをすることになったという。で、ドウロをたくさんつくったのだろう。おかねのむだづかいともいえるが、それは、「いきどまり」ではなくて「みちができた」というキボウがあることばになるので、まあよかったのかもしれない。

ゴジュウハチ

なかなかゲンダイブンのカンカクでハクネンマエのホンをやむとなかなかすすまない。いまなら、ひらがなにするモンクをカンジをつかってあらわすからだ。まあ カツジだとジショをひけばよめるからいいが、タツピツでかかれると、よめない。だから、タツピツでかかれたむかしのホンは いまのところ よめるきがしない。

ゴジュウキュウ

あるくからかんがえる。とはわたしのイッサクめのホンのダイだ。あるくからシゲキがえられてかんがえるというイミだ（●『ア』ヒャクロクジュウニ、ヒャクロクジュウヨン、ヒャクハチジュウサン）。しかし、あるくならトカイよりいなかのホウがいいだろう。それはトカイだと、タイテイのものはサクシャがセツメイすればわかるようになる。だが、いなかだと、そういうセツメイはえられない（モチロン、ガクシャのセツメイやカセツはあるだろうが）。だからかんがえる。

ロクジュウ

ビル（カンジョウがき）がたくさんたまるとケッコウなたかさになる。モチロンつめばであるが。イッコイッコすばやくケッサイしていけばたかくはならないがたまるとたかくなってしまふ。ちかごろはむかしよりよくためているのだろうか。なぜならコウソウのたてもものがふえているからだ。エイゴではビルディングというが、ニホンでは「ビル」といわれたりする。つまりたかいビルがたつたというとき、たかくカンジョウがきがつみあがったともべつのセンでいえるのである。ホントウにカンジョウがきがつみあがっているのか。かんがえてみると、タジュウサイムでジコハサンみたいなはなしがたまにある。ジコハサンはカンジョウがきがショリできなくなっておこることだ。あまりきかないがジツはよくあるのかもしれない。ビルのかずだけ、カンジョウがきがつみあがっているといえるのであろうか。

ロクジュウイチ

レッシュヤのことをトレインという。しかし、トレインといえば「クンレン」だったりする。このイミのひらきはどうセツメイするのか。それをかんがえると、ツウキンジのマンインデンシャがホントの「トレイン」ではないかとおもう。つまりトレインのなかで、どんなアツリヨクがかけられてもショウキがたもてるようにジョウキヤクをトレインする。こんなかんじでイミがコテイされたらマンインデンシャはなくなるだろう。どうすればいいか。それなら、「ホウィール（シャリン）」をきたえましょうとか、レイルウェー（テツドウ [センロ]）をきたえましょうとすればいいかも。

ロクジュウニ

うたばんぐみがたまにテレビでホウソウされている。くにのホウリツも うたぐらいのながさにならないものか。やたらながくおもえる。かんがえてみれば、ハイクやタンカはあったし、むかしのホウレイはみじかかったようなきがする。ようするにセイジカやカ

ンリョウががんばっているのだろう。いまのハウブンじゃ うたっていたらジュップナイ ジョウはかかる。ジョウシキテキな うたのながさがゴフンとかだから、せいぜい そのテイドにすればともおもう。

ロクジュウサン

「カイケン (ケンポウカイセイ)」さわぎなどあったりする。これはみおとしがちなのであるが、いまのケンポウには、シヨク (たべる) のジユウが「ある」とはかかれていない。「グルメ」だのなんだのはなしをきくと、ちょっとやりすぎかとおもう。そういえば、おさないころ、おやじに「いやならたべるな。」といわれたものだ。おやじは センソウもしているセダイなのでセットクリヨクがあった。たしかにケンポウに「ジユウがある」とはかかれていない。もし、そのジユウをみとめてしまうと「ガッコウキュウシヨク」もなりたたなくなるかもしれない。あまり、「シヨク」にこだわらないというのはダイジだろうか。

ロクジュウヨン

ふゆはさむい。トクによあけがイチバンさむいようにおもう。よるのあいだ ひにあたってないからどんどんキオンがさがっていくからだろう。そうかんがえると、「カクのふゆ (カクセンソウでつくられたふゆ)」なんてそうとうさむいのだろう。だから「レイセン (コールドウォー)」といったのではないか。

ロクジュウゴ

ひさしぶりにすなぎもをたべた。「すなぎも」といわれても どのブブンだかわたしはわからないがおいしい。おやじがよくかかってきてくしやきにしてくれたことをおもいだす。「もつ」というセンタクシもあったとおもうが「すなぎも」だった。もうゴネンはたべていなかった。そういうあじでおやじをおもいだす。

ロクジュウロク

「クリスマス」といえば どうもトリニクをたべるひとかんちがいしてしまいそうだが、キリストのタンジョウビをいわうらしい。ガッシュウコクにいったとき、あるショウテンで、うたをガッシュウしているひとたちに であった。わたしは、コウコウセイのときに そんなきもちもないのに「おお、シュよ」とうたわされそうになっていやだとおもっていたのだが、ちゃんとしていると (そう、チャントだ) いいものだとおもう。そう、オ

ウベイのひとのガッシュはうまい。ニホンジンがうたうと、なんかハクリョクがない。やっぱりレキシなのだろうか。

ロクジュウシチ

たしざんっていうのはカンタンなようにおもえるが、それは、どこかでひきざんがなりたっていないとフカノウだ。たとえば、ニヒャクエンのさかなをキヤクにうるとなると、「さかな」イッピキがひきざんされてかわりにニヒャクエンをうけとるわけだ。さかなはムゲンにあるようだが、やっぱりエサとかシゲンにかずがサユウされる。ジブンのこづかいをひきざんするというのはつらいが、ベツのものをたしざんするためにしかたなかったりする。

ロクジュウハチ

ひとのドリョクっていうのは、それをみるひとがドリョクをしたことがなければわからないのかもしれないとおもう。ドリョクして、あたらしいキョウチにタツするということもあるだろう。ただそのあいだのドリョクというのは、ひとによくおもわれなかったりする。まえのようにやってればいいのにとか。でもそのドリョクがみえるとやっぱりすごいとなる。「コケツにはいらずんばコジをえず。」である。

ロクジュウキュウ

コンキのふゆはダントウだといっていた。たしかにそんなゆきもふらなかつた。イッカイツもったが、まあそれほどでもなかつた。ケッキョクコンキはゆきおろしをしないようではないか(●ジュウヨン)。ゆきおろしヨウのフクもコウニュウしたが、まあコンキはデバンがないかもしれない。きのうもちょっとふっていたがすぐとけてしまった。

ナナジュウ

「はるイチバン」というが、どのかぜにそうなづけるのかというのはむずかしいとおもう。にたようにふいたりするからだ。だからおもいきってつけてしまえともおもうが、そうもいかないのだろうか。

ナナジュウイチ

サンネンまえに、ショクジのエイヨウのベンキョウをした。ベンキョウといってもドクガクであるが。たまごがタンパクシツをどのくらいふくんでいて、なにかがシシツがおおいというようなはなしである。だから、そのゴ、エイヨウにきをつけたショクジをつくるようになったが、おふくろにはフヒョウであった。「そんなにたべたくない。」といわれてしまった。エイヨウをとったホウがいいようだけど、ほかのリユウもあるのだろう。「たべたくない。」じゃしょうがない。たしかに そんなに うごかなければ、エイヨウはショウヒされないともおもう。それから わたしはわたしでショクジをするようにした。でも、ねむれないとかそういうコンナンがあったら、イツカイダンジキをするとすんなりねむれたケイケンがある。エイヨウぎれで ねるというのもひとつのセンタクシだろう。

ナナジュウニ

チュウカケンのショウガツは「キュウレキ」のである。バクチクをよくならす（そこでジウゲキジケンがおこってもわからない）が、ニホンではうたばんぐみがおわったあとの かねのおとであろうか。はつもうで といいひとが ジンジャやジンにむかう。そんなに シンジンぶかいのかはわからないが まあ そうする。それも どこかのユウエンチや「おいしい」リョウリヤにならぶのと おなじようにヘイキでイチジカン、ニジカンならんでいるからすごい。さむいなかをだ。こむジカンをさけていけばそんなことをしなくてよいのだろうが、やっぱりならぶのがいつものことのようにだ。ゴガツのレンキュウもそうだ。ずらしていけばそんなにこみあわないのだろうが。ツウキンデンシャもそうである。しごとに行くのとおなじくらい ダイジなことがらなのだろう。

ナナジュウサン

わたしがわかかったころは、きどってまあまあのさけをのんだ。たとえばウィスキーのジウニネンものとかである。しかし、しごとをやるようになってからさけのトウキュウをおとした。どちらかという「リョウ」が ヒツヨウになったからだ。ようするにチューハイをのむみたいなのはなしである。ウィスキーなどにこおりをいれてのんだジキもあったが、それから そのままにかわり、いまではみずでわってのむことがおおい。ジブンなりのスタイルができたといってもいいのだろうか。

まえに「ゆずスイ」のはなしをした（●ジウサン、ヨンジュウロク、『ア』ニジュウハチ）が、それでウィスキーをわってのむとおいしい。まあカクテルといえなくもないがそれはそうと フマンなくのめる。もうすぐはるであるがまだゆずがそこそこある。「ゆずスイ」もおいしいし、「ゆずわり」もおいしいからまだ たのしみはつづく。

ナナジュウヨン

なぜガッシュウコクのひとつたちが「ショウヒ」のケンインヤクとされるのか。それはタブン ガッシュウコクのひとつのいえがおおきいからである（ここではブツリテキにおおきいといっている）。だから、ガッシュウコクのひとつとくらべてニホンジンのショウヒがすくない（ショウヒがのびなやんでいる）というのはやむをえないことだろうとおもう。ニホンジンのいえは「ちいさい」といわれるし、いえのおおきさのハンイでしかものはシューノウできないからだ。そういうわけだから、「ものがうれない」というのをなげくのだったら、「おおきな」いえをたてることにキョウリョクしたホウがいい。

ナナジュウゴ

ニンゲンはキホンテキにコタイとエキタイでできている。「ほね」なんかはコタイだし、「ち」はエキタイというぐあいである。では、キタイでできたニンゲンだったらどうなるか。いろがつかなければ「トウメイニンゲン」である。まあキタイだから「キタイニンゲン」にしておくか。カガクハンノウとかエイヨウセッシュができればセイズンはカノウだからできなくもないようにおもえる。いつものように、ニクヤヤサイをたべてしまうと、いろがあらわれてしまうからコタイとエキタイのニンゲンに いやがらせをされてしまいそうだ。だからトウメイなエイヨウザイをセッシュするようだろう。エイヨウのジュンカンもトウメイなキタイでおこなえばまあセイズンできるんじゃないかと。ただ、ニンゲンとうまくやっていけるかがモンダイかもしれない。

ナナジュウロク

わたしがわかいころは「したぎ」でよくまちをあるいた。「したぎ」というのは「ティシャツ」である（●ニジュウヨン）。ウンドウをしていたせいもあってよくきていた。フツウのシャツにあこがれたが、なかなかたかくてかえなかった。たしかに ガクセイヨウやロウドウシャヨウのシャツはやすくうられていたが、「ガクセイ」でも「ロウドウシャ」でもなかったのかわなかった。オウシュウセイのはニマンはした。だから、「したぎ」をかってしまう。

いまでも「したぎ」であるいているひとがいる。「イショク たつて エイジヨクをしる。」という。「イショク」とは きるものとたべるものである。「エイジヨク」とは メイヨとはじである。それがいうには、「イショク」がたりないうちは「はずかしい」とはおもわない。つまり、「したぎ」でセイカツしているうちは、「したぎ」すがたでまちをあるくことは「はじ」と おもわないのである。だから、「イショク」をたりるようにしたほうが「はじ」をしるようになるが、まだ「イショク」はたりていないのであろう。

ジーンズもよくないといわれたことがある。サギョウギだからレイをかくというリュウだ。だが、わたしがわかかったころの わかものはこぞってジーンズをかっていたきがする。しかし、そういうわかものタイコウブンカはサイキンかげをひそめたようにもみ

える。わたしもジーンズははかなくなった。

ナナジュウシチ

ふゆのあいだに、ニラがかれてしまった（●ニジュウニ）。そのまえにたねをつけていたので、まあダイがわりなのだろうとおもった。そして、いまごろになってめがはえてきた。しかし、ベツのところにはえているニラをみると、そのニラはふゆをこしてあおあおとしている。ショクブツのツゴウなんだろうが、それなりにちがいがあつたものである。ダイがわりしたニラはおやじがうえたらしい。イッポウ、ふゆをこしたニラはわからない。ひよっとしたらヤセイのニラかもしれない。これはカセツであるが、ヤセイのニラのホウがつよいといえるのではないだろうか。しかし、なにかがちがうのかもしれない。

ナナジュウハチ

おおきなジシンがあつてからゴネンになる。あのジシンはおおきかつた。シンゲンにちかいホウではそのあとのつなみがきつたのだろうけど。あのあとすぐにコンビニにいったら、ショウヒンがサンランしていた。だが、しなぎれはなかつた。ところがつぎのひにいてみると、パンなどがしなぎれしていた。やっぱりあるかもしれないつぎのジシンにそなえてかうのだろう。あれイライ、もちだしヨウバッグをつくつて、みずやショクリョウなどをいれている。やっぱりむずかしいのはみずだろうか。ひとりイチニチニリットルのんだらもちだしヨウのものはすぐにからになってしまう。だから、そとにみずをためておくはこをもうけた。

ナナジュウキュウ

「ヘイワ」というのは、ちいさくはあつたかもしれないが、おおきくはなかつたかもしれない。いまでも、どこかどこかがどこかであつていよう。ニンゲンがセンソウジョウタイをキソにしているとすれば、ヘイワはニンゲンがシンカしないとタツセイできない。つまり、あつたらしいノウ（あたま [●『ア』ヒャクサンジュウハチ、ヒャクキュウジュウハチ]）をハツタツさせなければヘイワはタツセイできないだろう。そのあつたらしいノウをハツタツさせたひとがふえていくと、だんだんヘイワになっていく。でも、その「ヘイワ」はシンカのケツカタツセイされるあつたらしいものだから、ジュウライの「ヘイワ」とよべるかはギモンだ。まあかりに「あつたらしいヘイワ」にしとくか。

ハチジュウ

むかしは ハダシは ニホンジンのセイソウであったという（やなぎだくにおシ）。それが、タビをはいたり、ゲタをはくようになったという。そもそもしごとがこめさくや なんだで、はきものというのがあわなかったのだとおもう。イッカイイッカイはきものを あらうようじゃたいへんだ。ところが、メイジにはいって ゲタがフキウしたという。それをはいて いなさくはかんがえづらいから、トシのロウドウシャなどがふえたのだろう。キソテキなサンギョウから ニジ、サンジサンギョウへとロウドウリヨクがイドウしたのだろうとおもう。「あしをあらう」というが、そのホウがロウドウとしてはまっとうであろう。しかし、「あしをよごさない」というリュウコウになったようだ。そういうオゴリがのちのセンソウを ひきよせたとかんがえると いまも また かんがえないといけないとおもってしまう。

ハチジュウイチ

むかしのいいブンカというかがうしなわれたりする。もっともソエンになっているからかもしれないが、わかいセダイには そのよさがわからなかったりする。コンカイの そのブンカというのはアンマだ。「シアツ」とか「マッサージ」とかよばれるあれだ。もっともわたしは いままで そういうみせにいったことがない。また わかいころもからだの コリになやまされたこともない。あえていえば、フロヤのアンマキをつかったくらいだ。いまのそれはニジュウエンテイドではうごかないとおもうが。

サイキン わたしはかぜをひいて せなかや こしが いたくなつた。まありユウカン（インフルエンザ）では なかったらしいが、そのときはひさしぶりに つらかった。アンマというのは していたが、ジブンにそれをするには メッタに なかった。だれかに やってもらうものだとコテイテキにおもっていた。しかし、なにげなく、いたいところを ジブンでもんでみると アンガイきもちいい。そのゴ、アンマをおもいだしたのである。ジブンでアンマをすればいいのだ。そのためのドウグもある。いたくなつたらいたわってやろうとおもう。

ハチジュウニ

そういえば、こどものころ ニジュウエンでジョウゲにうごく のりものがあつた。さいきんそういうのをみないきがする。デパートの オクジョウとかにあつたとおもう。テレビゲームの ニンキからか そういうゲームにとってかわられたのかもしれない。そういうふるい、よいものがとってかわられてしまうのは かなしい。たしかに わたしもテレビゲームをよくしていた。ゲームやにいてやってもいた。いまかんがえると ばからしいともおもうのだがやっていた。あれは ソウサできる ドラマとでもいおうか、ソウサするなにかを のぞましいホウコウに むけていくというあそびだ。それなら、ラジコン（うごくくるまのモケイ）をやったホウがおもしろいとおもうのだが、まあ、よくやっていた。タブン、テレビゲームは、そのバメンとかカンキョウを かえながら ソウサできるので リョコウみたいでおもしろいのだろう。

ハチジュウサン

はる。そういえば そういう ひだったとあるホウソウキョクのジンジイドウをみる。さく
らもさいたというわさばなしをきく。ニラが めをだしはじめていたので まあ はるか
とおもっていた (●ニジュウニ、ナナジュウシチ)。それから トオカほどたって、ジャガ
イモがはえはじめたのをみつけた。ニラもはなをさかせている。ここサンネンのあいだ、
ほとんどてをつけなかったのでねづいたのかもしれない。すこしずつはえるリョウイキ
がふえてきた。まあ、いわゆるザツソウよりはましだとおもう。ジャガイモのうえこみ
をした。ジャガイモはショウリョウながらも おととし、キョネンととれている。だから、
わりときがるに うえられる。ことしは なえものにもチョウセンしようかとおもうが。

ハチジュウヨン

なぜ セイヨウの コテンオンガクでうたうカシュは そのからだに ニクをたくわえている
か。ちょっとまえにきづいたのだが、それはナイゾウからこえをだすからであろう。あ
るカシュのうたをきいていたらナイゾウからの おとというのをかんじた。よく、「はらか
らこえをだせ」といわれるが、そのはらがおおきいほど オンリョウがでるのであろう。

ハチジュウゴ

ジュウネン、ニジュウネンまえは、くるまのステレオソウチでオンガクをならして、テ
イオンのバスドラムのおとを まわりにひびかせていたひとが イッテイスウいた。イチ
ニチ あるけば ニ、サンダイそういうくるまに であつたとおもう。しかし、サイキンは
そういうくるまにであわない。フケイキだからであろうか。もっともシィディも うれな
くなくなったというし。たしかに おおものカシュのシィディも ちかくのみせで おかなく
なったりしている。あるのはやはりものの シィディだ。

イッタイ シィディをかう コウバイリョクは いまなににばけているのだろうか。ヤチン
や こどものキョウイクヒにばけているなら まあまっとうだ。サイキンのわかものはくる
まをかわないというから、それで、そういうおとをならすくるまがへっているわけだ。

ハチジュウロク

「バドミントン」というキョウギがある。わかいときはきにならなかったが、「バド」と
はショクブツのわかいめだろう。「ミントン」とはなにかとかんがえる。「ミント (ハッ
カ)」ではないか。ようするにハッカのなえをうちあっていたのでは、とおもう。それが
あぶらからできた「なえ」もどきをうつようになったと。ちょっと ハッカがかわいそう

なきがするがそんなところではないか。

ハチジュウシチ

シィディもうれなくなつたがホンもうれなくなつたという。それもまあわかるなきがする。ホンヤのかずがへつたからだ。わかいころにまちにあつたふるホンヤはそのホンのテイカのハンガクぐらいでうっていたが、(セイレキ)ニセンネンごろにかずをふやしたふるホンヤはテイカにかかわらず、ヒャクエンとかでホンをうっていたりした。いまでもそうなのだが、ヒャクエンだとたとえばセングヒャクエンのホンをかうかわりに、ジュウゴサツホンがかえてしまう。なぜ、あるふるホンがヒャクエンで、ほかのふるホンがヒャクエンじゃないのかはよくわからないが、シジョウのゲンリなのだろう。でもそのおかげで、わたしはヒャクサツちかくおおくホンをよめただろうか。ふつうにかうとジュウゴマンエンなり。ふつうのふるホンヤでもナナマンエンなりである。まあそのブンシィディをそのみせにうったりしたが(ゴジュウまいはだしたであろうか)、それもテイカでかんがえるとジュウゴマンエンなりである。で、そのシィディをゴヒャクエンくらいでうっているのだから、まあそういうのをかえれば、たしかにシンピンのシィディヤホンがうれなくなるのであろう。

オンラインのホンヤのソンザイもおおきい。いろいろなホンのなかからジョウケンをしていてケンサクしてほしいホンをみつけられる。ホンヤでホンをさがすよりはやいかもしれない。そのケンサクをすると、すきなチョシヤがむかしだしたホンヤ(でていたにもかかわらず)ソンザイをしらなかつたホンにであえるからベンリだ。

ところで、シィディのヒョウシをみてシィディをえらんでかうことをジャケットがいというが、シィディのばあいそれでこのみのものにあたることはケッコウある。ただ、ホンのばあいはジャケットがいをやつたことがない。だいたいホンヤではためしよみができるからだ。しかし、そういうことができるホンヤそのものがすくなくなつた。わたしのいえのちかくでも、イッケンできて、ニッケンヘイテンした。シィディヤもサンケンできてロッケンヘイテンした。おおてのシィディヤばかりになつた。そういうところだと、コセイテキなシィディはあつかわないので、あまりおもしろみがない。まだイッケン、コセイテキなシィディをあつかうみせがあるからいいが。でもオンラインでかうことがふえた。ヨウガクのばあいだとカシのホンヤクがついただけでチョコユニウものよりセンエンたかくなる。それはちょっとバカバカしい。エイゴがよめれば、ニホンバンよりヨンジュッパーセントやすくたのしめるのである。それならとエイゴをベンキョウするリユウがある。

ハチジュウハチ

ビーダマをなにかのまわりでシュウカイ(まわる)させようとする、タイヘンなエネルギーがヒツヨウであろう。デンキでうごくくるまをつけてまわすではいけない。その

ものをまわすのだ。チエシャならもっといいアンをかんがえるかもしれないが、タブンセンタクキのようなところに入れてしまえば、まわりつづけることができるだろう。それだってケッコウなエネルギーだが。つまり、あるクウイキがまわっているというかんがえかたをすれば、チキユウのコウテン（レヴォリューション）をセツメイできる（チキユウが「まわっている」のではなくて、クウイキが「まわる」とかんがえる。これがわたしのゼンチョ『アルクカラカンガエル』でとなえたクウカイロンである。ダイニテンドウセツといえるかもしれない。●『ア』ヒャクロクジュウサン）。このばあい、「センタクキのカイテンリョク」、もっといえば、「モーターのカイテンリョク」がわたしのいう「うずまきリョク」である。チドウセツ（ビーダマはうごく）、テンドウセツ（クウイキがうごく）でもある。

チキユウがコウテンするのはセツメイできるが、「うずまきリョク」とはなにかというのがまだセツメイできていない。タイヨウがそれほどのエネルギーをもつのかというのは、ビーダマをまわすジッケンをすればわかるが、ソウトウなエネルギーだとおもう。

ハチジュウキユウ

いすのせもたれはありがたい。トクにこしがいたかったりすると。いたくなくてもよりかかればラクである。だれがせもたれをつけたのかはわからないが、あるカテイ（ソウテイ）からいうと、ごくまっとうである。それは、ニンゲンはまえにむかっていきをはき、はらでわらうからだ。もし、ニンゲンがコウトウブでいきをはき、せなかでわらっていたら、タブンまえがわにつまりはらもたれになったはずである。まえにいきをはけば、ハンドウでうしろにジュウシンがうごく。だから、くちのハンタイがわに「もたれ」がつくはずなのだ（ジッサイにそうになっている）。はらもたれがついているいすというのは、みかけないから、むかしのひともくちはまえにあり、はらでわらっていたということだ。すくなくとも「せもたれつきのいす」ができてからニンゲンはそうかわっていないはずだ。

キユウジュウ

「シャカITEキ」な「クウカン」というのをかんがえる。もし、だれかが「はしら」だとすると、サイテイサンニンの「はしら」があれば、「シャカイクウカン（シャカイカンケイクウカン）」ができる。うえにやねをつければ「いえ」になるということだ。もし、「グローバルカ」がホントウだとすると、うみをこえていえができてことになる（いへのなかにうみのイチブがある）。それをタッセイしようとおもったら、「はしら」のキョウドがヒツヨウだし、ソウトウなたかさもなければできない（チキユウのハンタイガワならフカノウだ。）。やねのシザイもヒツヨウだから、むずかしいコウジといわざるをえない。

そういうカテイからいうと、グローバルカは（おなじキジュン [このレイのばあい] くカク

ン〉とでもいおうか]でセイカツするのは)コンナンといえるのではないだろうか。つまり、おたがいにはなしあえはするけど、おなじホウリツ、シホウなどをテキヨウするのはむずかしいと。

キュウジュウイチ

わたしがこどもだったころは、あまり「オレンジジュース」にめぐりあわなかった。かわりにあったのが、「オレンジフウ」インリョウと、イチワリとかニワリとかの「オレンジ」セイブンがふくまれたインリョウだ。サイキンは、ほんものの「オレンジジュース」がふえて、そういう「オレンジフウ」インリョウのホウがみられなくなった。それだけ「ゆたか」になったのであろうが、そういうクフウのあじもいとおもう。

キュウジュウニ

ニホンジンは、くじらもたべるが、うまもたべる。むかしチュウゴクで、シンのオウ(セイカクにいうとそうでない)がとなりのくにのグンにかこまれた。そこで、シンのショウグンがヘイによいうまをころしてたべさせた。それでちからをつけたヘイが、オウのキュウエンにかけつけ、オウをたすけたという。たすけられたオウも、よいうまをうしなったが、それをつみにせず、かえてそれらのヘイにさけをあたえたという。つみにとうほどのジュウヨウなシゲンだったがである。だから、うまをくうニホンジンはソウトウなしごとができなくてはならない。

キュウジュウサン

台湾のトウブに、ダイリセキをサンシュツするチイキがある。イゼンにわたしがおとずれたときに、ダイリセキでできたさいころをかった。ベツにセンソウのあいずではないが、あそびによくつかっていたからおもしろいとおもった。また、ベツのときにはダイリセキでできた「たまご(モゾウヒン)」をもらった。そのときはなんなのかきにしなかったが、このまえそのイミをしった。

それは、(むかしのチュウゴクの)シンのくにのシソ(シコウテイではない。そのソセン)があるときとりのたまごがそらからおちてくるのをみて、そのたまごをつかまえてのみこんだ。そのご、そのジョセイはこをうんだというセツからきているのだとおもう。そのたまごをのんだジョセイからナンジュウダイとつづき、やがてチュウゴクをトウイツしたシンというテイコクができる。つまりハンエイのしるしなのだ、とおもう。まあ、そういうしるしがあったからかアンガイしごとがはかどっている。

キュウジュウヨン

よく「セイジ」とか「セイジカ」とかいう。なぜそういうかはレキシ（もしくはカコのジンブツ）からきている。（チュウゴクの）シンのくにのオウジセイはシンのくにをつぎ、やがてチュウゴクのほかのくにすべてをほろぼし、コウテイとなのにいたった。デントウテキなオウコクは、シンカのものにリョウドのイチブをあたえるが、シンではグンケンセイをとっていた（コウムインがチホウをおさめる）。また、ホウ（リツ）によるトウチもおこなっていた。このシンテイコクは、ほろぼされたオウコクがハンランをおこしたり、イヤク（くすり）やノウギョウなどのショモツをのぞいたほかのショモツをやきはらったり、シンカのものがにげだしたりするようなキュウクツなテイコクであったが、ジュウリョウや はかりのタンイをそろえたり、モジをトウイツしたりとそれなりのケツカをのこしている。そういう シンのシコウテイ「セイ」のなまえをとって、セイヂ（セイのチ [トウチ]）というのだろう。ヨウするに、いまでもくにのウンエイの てほんになっているわけである。

たとえば、グンケンセイやホウチシュギである。だから、チュウゴクとちがうことをしたければ、「セイジ」ではなくて「ムジ（つとめる、おさめる）」としたり、「セイフ」ではなくて「ムフ」とかにすればよい。「セイジ」や「セイフ」はそういういわれがあるゆえに、バツポンカイカクは むずかしいだろう。

キュウジュウゴ

シンのくにでは、オウ（オウといったのは、シコウテイがうまれるまえにはじめられたからである。）がしんだときに、シンカのものやヘイをジュンシ（おってしなせる）させたようである。シコウテイのときもやまをほって つくった スイギンのかわやうみをそなえた はかにしてそれらをつくったショクニンを くちふうじのために おきざりにして やまのヒョウメンをかためたという。ニホンでも はにわなどが コフンなどからみつかった いるが、それは「ジュンシ」のかわりなのだろう。

キュウジュウロク

（バンリの）チョウジョウもシコウテイのジダイにつくられたものである。いまだにのこっているときく。ヘイワになってしまえば、そういうものはヒツヨウないかもしれない。ムダとおもってしまったりする。しかしよくかんがえてみればカンコウシゲンになるとおもう。「ヨジョウ」というのはカンコウシゲンになるのだろう。

キュウジュウシチ

「みの（フクのうえにきる）」がメイジになって「ジダイおくれ」になった」とやなぎだくにおシ（『メイジタイショウ シ』）はいう。わたしはそれがなんだかわかるが といえばジツブツをみたことがない。せいぜい えでみたくらいだ。「あめは ななめにふる」にもかかわらず、「かさ」がフキユウしていったという。わたしがこどものころ、みのむしをみた。サイキンはまったくみないが、そういうリュウコウは むしにもあるのであろうか。そういえば、かたつむりもみない。ニンゲンが「みの」をきなくなると、みのむしの「みの」がないホンタイが「みの」をまとわなくなったのではないか。また、ニンゲンが「よろい」をきなくなると、かたつむりの「から」のないホンタイが「から」をまとわなくなったのではないか。そういうむしのブンカ（とってよいのか）がかわっていているのではないか。

キュウジュウハチ

「カクメイ」のことをレヴオリューションといたりする。たしかに「カクメイ」でジショをひくと「レヴオリューション」がでてくる。「～カクメイ」といわれると、「～レヴオリューション」とヤクしてしまいそう。しかし、「レヴオリューション」というのは、チキウのコウテンのことをさしたりもする。あのタイヨウのまわりをまわるといってをさす。ほかに「ローテーション」ということばもある。これは、ワクセイのジテンをさす。むかしはこれらふたつのことをシュチョウすると、いたいめにあったそうである。つまり、「レヴオリューション」ととなえることは「カクメイテキ」であった。そこで、「レヴオリューション」というゴに、「カクメイ」というイがついたのだろう。だから、「カクメイ」のことを「レヴオリューション」とヤクさないホウがいいかもしれない。なぜなら「コウテン」のことだからだ（「もうわかっている。」といわれるだろう。）。「コウテン」は「オールウェイス」だろうけど、「カクメイ」が「オールウェイス」ではこまるかもしれない。「セイタイ（セイジ）」があらたまることだからだ。ただ「カイトン」するということだから、いずれはもどるといってかんがえかたもできるかもしれない。そういうかんがえかたをするから、「リュウコウ」や「ケイキ」のジュンカンセツがでてくるのかもしれない。それと「カクメイ」はベツものだろう。

キュウジュウキウ

ジカンがたつと なにかをいいあらわすことばもかわってくる。わたしがこどものころ、ウンドウカイのオウエンダンなどで「フレイ」「フレイ」「～ぐみ」などといっていたが、きがついてみると、それはエイゴであった。「ケンカ」や「カクトウ」をあらわすという。だから、「たたかえ～ぐみ」というイミなのであろう。たしかにそんなかんじでいっていた。しかし、むかし（メイジのころとか）はオウエンするにも そうはいわなかったであろう。もっとまえになると、ホントのたたかいになる。なんといっていたかはわからない（「きってすてよ。～ぐみ。」とかなんだろう。サイキんだと「うて。うて。～ぐみ。」

になるか)。

たしかに「トンカツ」を食べるなら、「ポーク カットレット」などとエイゴをつかうばめ
んもあるはずだ。でも、「きれ。きれ。〜ぐみ。」とかはエイゴをつかわなくても いえそ
うである。ブツソウだからエイゴをつかっていうのだろうか。

ヒヤク

きがついてみると、ちかごろ「き」のあじをあじわっていないきがする。おひつなどを
つかわないからだろう。たしかにベントウなどでわりばしがついていてそれをつかって
たべることはあるが、はしをなめるのは ブサホウだからあまりあじわえていない。きがつ
けばしゃもじもあぶらセイだったりする。まだ カンゼンにうしなわれていないが、そ
ういうサホウも ダイジにしたい。

ヒヤクニ

「フケイキ」といわれるようになると、「ケイキタイサク」なんていわれはじめる。それ
でグタイテキになにをするかはよくわからないが、なにかにかねをつかうのだろうかとお
もう。セイジカの「トッケン」である「キセイカンワ」をしたというはなしはきかない
からだ。ただ、それはケツカをもとめる(られる)ので コウカテキにつかわれるのだと
おもう。

その「コウカ」をはかるのはなにかというと、カクシュトウケイのスウジや、「ケイキ」
というブンガクテキともおもわれるカンネンのチョウサででるスウジだろう。ただ、「ケ
イキタイサク」というと、やっぱり、「ケイキ」のチョウサででるスウジがダイジになっ
てくるのだろう。だから、そのチョウサに カイトウするダンタイや コジンにかねをばら
まけば、「ケイキ」はうわむくだろう。そういうチョウサをでたらめにえらんだ ダンタイ
や コジンにやっているなら、ホントの「ケイキ」がハンエイされたものにちかくなるの
だろうが、チョウサするダンタイや コジンがコテイしているとする、「ケイキ」がよ
くなったというケツカをしめすためには、そこにかねをつぎこむしかない。そうすれば、
「[ケイキ]はうわむいた」とカイトウされるからである。それをヒハンテキなひとは「リ
ケン」とよぶであろうが。

ヒヤクサン

むしが かぶのはを食べる。わたしが たべてもうまいとおもうのだからナットクである。
あるむしはぶどうがこのみらしい。キョネン よく ぶどうのみにとまっていた。ことし
はキャベツもうえたからであろうか。かぶのははそんなにたべられなかった。かわりに
キャベツがたべられているのであるが。

ヒャクヨン

ひとはなぜ「フロ」にはいるようになったのだろう。わたしがおもうにきもちがよかったのだとおもう。ただ ゲンショのころの「フロ」はいわゆる「フロ」ではないとおもう。タブン、かわとか みずたまりにはいったのだと。それがあまりに きもちよかったので、トカイやジブンのいえにも「みずたまり」をつくりだしたのだろう。さらに だれかがみずをあつためるようにしたのだろう。それがいまゲンザイでもつづいている。ただ、みずをタクサンつかい、ネンリョウもつかう「ゲンザイケイ」のフロははっきりいってゼイタクだ。

レキシをみると、ネンリョウをタクサンつかい、サバクになってしまったチイキもある。そういうのをまねすることはない。みずにしたってダイジなシゲンだ。なかったらセイカツできない。だから わたしは ここのところ フロにつかるのをジセイしている。かねもちは ゾンブンにフロにはいっていいかもしれないが、そんなにザイサンのないニンゲンはすこしのシゲンでクフウしていかなければならない。だから、(センメンキ) サンバイのみずでかみをあらったり、からだをあらったりだ。なつはカネツしなくてもきもちいいのでヨクソウにはいる。きもちいいからだ。それはナンゼンネンとかわらないのだろう。

ヒャクゴ

フロは「かわ」や「みずたまり」に ひとがはいつてからできたとかいた。そんなきもちいい「かわ」や「みずたまり」であるが、いまではいじわるしてはいらないようにさせているという うわさをきく。たしかに、かわのてまえにサクがはりめぐらされているところがある。そういうところでは、サクをのりこえないと「かわ」にはいれない。まあ、ジコをシンパイしているのはわかる。ただ、こどもならともかく おとなはダイジョウブだろうとおもう。だから、おとなは、「サク」をのりこえて かわにはいつてもいいのだろうとおもう。しかし、なんとなく、「サク」をのりこえられない「おとな」からモンクをいわれそうなきがする。やっぱりかわにはいつたいのだろう。なんかのシカクシケンなどでは、あまりそういうモンクはでていないようだが、「サク」をこえてかわにはいるという シカクシケンでは モンクがでそうだと。

ヒャクロク

どうもかんがえてみると、わたしは、チュウショク（ひるごはん）のモンダイをかかえていた。「あさごはんをたべないと～」というはなしをきいたことがあるが、まったくそのとおりだと サイキンはおもっている。「ひるごはんをたべないと」やっぱり「～」で

ある。もっともいまでは なにかをたべるのであるが、キュウシヨクのあるシヨウ、チュウガクセイのころは（わたしのばあい そのキカンのおおくがベントウだったが）まともであったが、コウコウセイのときに、ジブンでチュウシヨクをかっていくことにしていたら、まもなく、ジュギョウをうけるのがいやになった。ひるに パンと のみものをインシヨクし、あまったおかねでシィディをかった。そのおかげでオンガクにはくわしくなったが、コウコウセイのキョウカシヨにはくわしくならなかった。

「パン」でもいきられるが、エイヨウをかんがえると「ジュウブン」ではない。ベンキョウをしたかったら、ひるはガクシヨクでおやこドンやカツドンをたべればよいだろうが、トウジのわたしにはそういうチエがなかった。まあ、コウコウセイのころは、そういう「シヨク」と「セイカツ」についてまなんだとおもえば わるくはないとおもう。キャツカンテキにいえばエイヨウブソクでどこまでやれるかのジッケンであるが。「めし」は、「めす」という「よぶこと」をあらわすゴからきているから、ジブンがひとりでかってきてたべるのにそういうのは どうかであるが、シヨクジはダイジだとおもう。

ヒャクシチ

「キン」というエイゴは、キンシンシャ、エンジャをあらわす。このことばがヘンカするとどうだろう。「グ」をつけると「オウ」。「クイーン」とのぼしギミにいうと「ジョウオウ」である。だからわたしは、これらはドウルイゴとおもっている。つまり、「ドウゾク」のためのヤクシヨクとしての「オウ」とか「ジョウオウ」だ。

しかし、ベツのみかたもある。じつは ラテンゴにはゴクのはじめに「ケー（アルファベットのジュウイチバンメ）」のつくゴはほとんどない。だから、そのクウハクの「リョウイキ」をカイハツしていったとするみかたである。だから、そのアイデンティティ（シヨウメイ）として、「ケー」というジをつかったヤクシヨクがすえられると。もっともこのくにのひとが「ケー」というジのつくタンゴを おおくつくったかはわからないが。

ヒャクハチ

このまえドウロコウジをしているのをみかけた。タブン、ギョウセイがフタンするのであろう。たしかにジーディピーをあげるためにはドウロはヒツヨウだ（●『ア』ニヒャクサンジュウイチ）。ドウロをいいジョウタイに しておけば、ジーディピーは あがりやすい（なぜならシヨウヒンがはやくとどき、とりひきがカソクされるからだ）。でも、デンシツウシンにゼイキンをトウニユウしたとはきかないから、ギョウセイはゲンブツシュギなのだろう。やっぱりいまではとりひきに デンシツウシンをつかうから、それをエンカツにおこなえるようにすれば、ゲンブツのうごきはともかくジーディピーはあがる。まあ、ゲンブツがダイジだからいいが。

ヒャクキュウ

ドーナツつとよばれるたべものがある。こむぎをねったキジと きのみというタンゴのケツゴウである（●ジュウイチ）。だからといって、「きのみのかたちをしていない」とか「きのみは いていない」とかおこつてはいけない。「ナツツ」には ダイコウブツとい

うイがあるからだ。おもしろいのが、フロイドセンセイテキないかたかもしれないが、クウシンエンケイとかボウがねじれたかたちとかがおおい。やっぱり（というか）そういうのが「だいすき」なようである。

ヒャクジュウ

むくどりがことしもやってきた（●『ア』ゴジュウシチ）。やっぱり いえのとぶくろにすをつくりたいようで、とぶくろをみにきた。まあ、カイホウしてもいいのだが、あとでかたづけるのがメンドくさいとおもう。もうすこしわたしがかたづけるのがうまくなってからともおもう。

ヒャクジュウイチ

きょうもジーディピーがうごく（●ヒャクハチ）。なんでもジーディピーをニワリゾウカさせようというのがセイフのモクヒョウらしい。ということは、いままでよりもニジュッパーセント うごかすソクドをあげて、あいたジカンで やっぱりやりとりすればジーディピーはあがる。ただ、ヨユウができて、やりとりするとはかぎらない。チョククするというセンタクシがあるからだ。

じゃ、ジーディピーは あがらないのか。ひとつホウホウがある。ツウカにショウヒキゲンをつけてしまうのである。そうするとつかうしかないので、ジーディピーはあがるとおもわれる。ただ、そうすると、ショウヒキゲンがないツウカにかえてつかいはじめるだろうからコウカはゲンテイテキだ。やっぱり、ニジュッパーセントおおくはたらかなければなのだろうか。

ヒャクジュウニ

ことしも「みずブソク」といっている。みずのセツヤクをかながえたのは、ニネンまえになるが（●『ア』ジュウ、ニジュウサン）、やっぱりそれはダイジなようだ。ベンジョにながすのを サンカイにイッカイとかゴカイにイッカイにしたりセイカツハイスイでながしたり。イチバンタイセツなのはノウギョウだ。そういうドリヨクをして ノウギョウにまわす。こめもみずがなければたけない。ショウリョウなら、うみのみずを ロカしたりでつかえるだろうけど、みずをはこぶのがむずかしい。だから、フロとかセンタクとか ベンジョの つかいかたをクフウするといひ。フロのみずはやはり セツヤクすべきだろう。あれイッパイでイッカゲツのセイカツヨウスイが まかなえた。だから マイニチみずをかえるなど ゼイタクなはなしである。

ヒャクジュウサン

ニホンはみずのモンダイをかかえているといえる。みずブソクだから そういかとうとたしかにそれもあるのだが、いわゆる みずブソクはヘンドウする。そういうことでなくて、コウゾウテキなみずブソクである。それは、ショクリョウのユニユウにあらわれている。

ショクリョウジキュウリツがちいさくなったとってたびたびはなしになる（●『ア』ヒャクロク）。ジキュウリツをおおきくするにはノウギョウをするようだ。しかし、みずブソクであればノウギョウはできない。だから ゲンジョウでは そうカンタンにジキュウリツはカイゼンしない。つまり、すでにショクリョウをユニユウしなければならないほどの コウゾウテキなみずブソクなのである（みずをユニユウしているとかんがえてよい）。だから、みずの ジョウズなりヨウをししないと ジキュウリツがあがらないし、ショクリョウのセイサンがガイコクだのみになる。だから、みずをジョウズにつかうのはダイジなのだ。

ヒャクジュウヨン

どこかに コウセイインがいるいえがあったとする。そのだれかが「めしがまずい。うまいものをくわせろ。」といいだしたとする。そうすると、そのことについてタイオウしなければならないだろう。「おかあさんもがんばっているんだ。ガマンしなさい。」とだれかがいうかもしれないし、「じゃあ、スイハンキを あたらしいものにかえてみよう。」とだれかがいうかもしれない。なにがいたいかということ、そういう「フマン」がセイジのはじまりではないかということ。

おおむかしも、「そこはわたしのいえのはたけだ。」「いや、わたしのいえのだ。」とあらそったかもしれない。だから トチのリョウにかんするとりきめやトウキセイドができたのだろう。だから、トクにフマンがなければ、それイジョウのセイジはヒツヨウないかもしれない。ニンゲンのフマンに タイオウしてきたのがセイジである。と。だから、ミンシュシュギかどうかはともかく、「フマン」にうまくタイオウするのがダイジだとおもう。もっともほんものの「(シンのシコウテイの) セイジ (●キュウジュウヨン)」は、それはほうっておいて ほかのことを (キュウデンをつくったり) するのだろうけど。

ヒャクジュウゴ

サイキン あまり かたつむりをみない。なめくじはちよこちよこみるのだが。このまえ、からのない「かたつむり」のようなのをみた。なぜいわゆる「かたつむり」を みないのか。「から」がサイセイサンされていないのかとおもう。かといって その「から」をわたしがもっているわけではない。あさりの「かいがら」はてにはいるが、「から」のないかたつむりが「リョウ」してくれるとはかぎらない。タブン、フツウのかたつむりがも

つ「から」は、あるセイブンでできている。しかし、サイキンは、(わたしのみるハンイナイではあるが) そのセイブンがすくなくなっているのかもしれない。ニンゲンがセツシュしすぎているのか、サイシュしすぎているのかはわからないが、ドチュウにあるそのセイブンの かずがへってきているということだろう。むかしは、つちに とか ショクブツにハウフに ふくまれていたことがスイソクできる。しかし、いまはキチヨウになっている。カセツではあるが、そういうセイブンをかかってきて つちに ふくませればまた フツウのかたつむりが みられるようになるのではないか。

ヒャクジュウロク

ひとつの～といういいかたがある。「～」はなんでもいいのだが、マンジュウとしよう。「マンジュウをたべていいか。」ときくだれかがいたとする。しかし、マンジュウはフクスウであったので、「ひとつだけなら」とこたえる。ハイケイにあるジョウケンがわからないと、「フクスウ」のことをいっているのだから、「イッコ」のことをいっているのだがわからない。だから、「イッコ」とつけくわえるとわかりやすい。そういうのはメンドくさいサギョウであるが、つけくわえておくとまちがえないだろう。そういう「イッコ」をつけなくて つうじるとするのはソウトウなかがいいのだろう。イッコシャカイをコウセイしているかもしれない。

ヒャクジュウシチ

なつはあつい。サイキンはクーラーというかレイボウキが フキユウしたようで センプウキをあまりみなくなった。むかしはデンシャのテンジョウについていたものだ。デンシャのまどをあければかぜがはいてきて すずしいし、それでモンクをいうことはなかった。

しかし、ハチジュウネンダイのおわりかキュウジュウネンダイのはじめぐらいに レイボウキをつけたデンシャがはしりはじめた。そのころのシャリョウはまどもあけられたとおぼえている。チカテツでは チジョウにあがるとまどをあけて、チカではレイボウキをつけるというサホウがあった。しかし、イッタンおぼえたカイラクはやめられならしく、いまではレイボウはあたりまえ、さらにまどをあけることができない シャリョウがふえてきた。まどをあけるとケッコウすずしいとおもうのだが。そういえば コウリツガッコウにはレイボウキはなかった。それでも モンダイなかったのだが。

ヒャクジュウハチ

センキュウヒャクハチジュウナナネン、わたしはホンコンにいった。わたしがいったというよりもつれていってもらったのだが。まあおもしろかった。ホンコンにもユウメイハンバーガーやがあったし、ユウエンチもあった。チュウカリョウリはもちろん、ニホ

ンリョウリもあった。ザツタなかんじとキンダイテキなかんじがあって キョウミぶかかった。

ホンコンは、タイリクのはじの キュウリュウチクとしまのホンコントウがあって、そのあいだをフェリーやトンネル、チカテツがはしっていてうみをわたれるようになっていた。そのチカテツでひとつおもしろいとおもったことがあった。「キカイシキ」のケンバイキと「キカイシキ」のカイサツがあったのである。いまではニホンでもあたりまえになったが、そのころは「キカイシキ」のケンバイキはあっても「キカイシキ」のカイサツはなかった。もっとも コクテツがミンエイカするか、していないときなので、そんなにコウリツテキなウンヨウはしていなかったのである。そのころは ジョウシャえきでショクインに（えきごとにちがうカタをした）はさみをキップにいれてもらって、コウシャえきでショクインに ケンサツをしてもらおうというやりかただった。

ところで、そのホンコンのキップはジキシキで、ニホンのテツドウガイシャもつぎつぎにその「キカイシキ」のカイサツをドウニュウした。さぞジンインをサクゲンできたことであろう。そのトウジ、エイコクでは、くにのジギョウをミンエイカするセイサクがとられていたらしいが、トウジのエイコクがトウチしていたホンコンでもそういったクフがなされていたわけだ。

ヒャクジュウキュウ

ホンコンからポートですこしはしっていくと マカオがある（もっともホントウに「マカオ」かといわれると わからないが [チズやジーピーエスでカクニンしたわけではない。そういいはじめると、わたしがいったくにはすべてミカクニンともいえる。ヒコウキにのっているときに、チズとラシンバンをつかったわけではないからだ。ガッシュウコクセイのエイガにでてきそうな「セット」であったカノウセイもある。])。そういわれているところについた。このチクは「カジノ」があるところだ。もっともチクといっても、トウジのホンコンがエイコクにトウチされていたのにタイして、マカオはポルトガルにトウチされていたから、それぞれベツのくにだ。わたしはそのころミセイネンであったので カジノにははいらなかったが、ステーキをたべたのをおもいだした。そのときはあまりおいしくない（ほかでいいソースのステーキをたべたことがあったので）とおもってしまったが、いまかんがえるといいイミで「ソボク」なあじだったんだとおもう。ニホンリョウリにたとえれば「サシミ」のような。もっといえば、そういう ソボクでないくにはながつづきしないのかもしれない。いまではそのよさがわかるようになってきた。

ヒャクニジュウ

シィディがうれなくなったとき。もっとも わたしがちいさかったころはレコードプレーヤーもあったし、カセットテープもついていた。カラオケをうたうようなところではハチトラックをつかっていた。それからシィディがでてきた。レーザーディスクと

いうのもあった。

わたしのところで シィディをつかうようになったのがセンキュウヒャクキュウジュウネン。シィディラジカセをかった。やたらでかいフレームにシィディプレイヤーとカセットテープサイセイキふたつがトウサイされていた。トウジはハッセンチメートルのシィディもハツバイされていて、シンキョクをきくにはそういうのをつかっていた。といっても、トウジはレコードテンにテープもあったし、シィディもうっていた。そのうちハッセンチメートルシィディはハツバイされなくなった。キュウジュウネンダイコウハンだとおもう。

わたしはシィディを たなにおさめるようにしたが、ニヒャクマイをこえるとおさまらなくなってくる。だからというか、ショブンしたりかたりするようになった。チュウコシジョウもひろがったし、しなぞろえのよいオンラインショップもできた。それらのハッテンとともに まちのシィディやはすくなくなっていく。それらができるまえは、オチャノミズまでいって、センモンテンにかいにいったものだ。しかし、それをしなくてもかえるようになったので いまは チュウコシィディやオンラインショップでかっている。

かんがえてみて、なぜ「シィディがうれなくなった」とかという、ニホンジンのいへのせまさがそうさせているのだとおもう。いや、「せまく」ないとしても、スウヒャクマイのシィディはいえにおけないのである。むかしかったおきにいりのシィディもあるだろうし、そういうのをショブンしてまでかいたいかといわれると ギモンである。だから、うりてはシィディのストックがすくない「わかもの」をねらうのであろうが、デンシハンバイ（オンガクのデータだけハンバイする）でテイカカクカがすすみ、シィディをかうのはわりだかになっているから（デンシハンバイだとイッキョクヒャクエンから）そんなにうれないのであろう。チュウコシィディのソンザイもある。

ヒャクニジュウイチ

ジュウボウエキジョウヤク（サイキンはエフティエーということがおおいようだが [フリートレード トリーティである]）などにノウカはギモンをもっているのだろう。たしかにカンゼイがなければ、そのしなものがやすくてにはいる。しかしながら、カイガイからはいつくるやすいノウサンブツにおされて ノウカが ダゲキをうけていいのかともいえる。カイガイから ノウサンブツをユニウして、コクナイでつくったコウギョウセイヒンを ユシュツしていればいいというかんがえかたもある（ショウヒンサクモツをタリョウにつくって、ショクヨウのサクモツをすこしかつくらないのはよくないとわたしがちいさいころにおそわったことがある。）。なんかのリユウで ユニウができなくなったらうえじにである。

むかし、あぶらをもとめて ニホングンは トウナンアジアにシンコウした。セキユがサンシュツされるからだ。セキユがないとふねがうごかない。コウクウキもうごかない。だからセンソウをするときめたら、ただちに セキユをもとめて ナンシンした。なぜナンシンせざるを えなかったか。それは オウベイが ニホンへのユシュツキンシソチをとっ

たからだ。それとおなじように、ショクリョウのユニユウがとまれば、ニホンジンはまだセキユのとときとドウヨウに、にしなり みなみなりにシンシュツするようになりかねない。

まえのセンソウでは、オウベイジンや シンシュツサキのヘイシが たまをうってニホンジンをコウタイさせようとした。しかし、ショクリョウがフソクのばあいはニホンジンをたおすには「たま」はいらない。ただ くにやジンチをかたくもってれば、そのうち ニホンジンはうえてたおれていくのだ。ギャクに せめこまれても うえがあってはまもりきれない。ショクリョウジキュウリツ（●ヒャクジュウサン、『ア』ヒャクロク）が ヨンわりといわれている。だからゲンジョウでは、そういうジョウキョウになってもヨンわりはいきのこる。それでも、コクナイセイサンをギセイにしてユニユウしろというのか。むかしは まかなえていたはずである。

ヒャクニジュウニ

ケイザイのことをかたるとき、とめるものから まずしいものにと「とみ」がこぼれる ということを用。それは なくはないとおもうがむずかしいとおもう。ゲームセンターに コインをいれて、そのコインのアツリヨクで ほかのコインをおとしよりおおくのコインをカクトクするというゲームをゴゾンジだろうか。なかにはジョウズな（トウシガクよりもカクトクガクのホウがおおい）ひともらっしゃるだろう。だが、タイテイのひとは、トウシガクのホウが、カクトクガクよりもおおきくなってしまう。

ジッサイのゲームでそうなんだから、「とみ」がこぼれることをキタイしても、「とみ」のイチブがとどくまえに おおかたの「とみ」はだれかにぬかれてしまうのだろう。あのゲームは ニンゲンシャカイのホンシツを おしえてくれたとおもう。ほかにケイヒンをつりあげるゲームもあった。やっぱり これも「とみ」がぬかれるようだ。だから「さかなつり」のホウがいいかといえば、「ギョギョウケン」がどうのとやっぱりぬかれるのである。

ヒャクニジュウサン

「トイレ」というと、「ベンジョ」だったりするが、フランスゴでそういうと「ぬの」のことをさす。カンゼンにハツオンすると、「トイレット」となるがどちらかという「トワレ（ット）」というらしい。それでも「イショウ」とか「イショウをなおすところ」のイだ。そうなってくると「ケショウシツ」だの「おてあらい」だのどういうことかわかってくる。だから、トイレットペーパーというケショウシとなる。ケショウシというわりには なんだかイメージがわるいようだが。

ヒャクニジュウヨン

「めし」というと「ごはん」をさしたりする。タブン、「めす」というゴをカツヨウして（ゴダンカツヨウ）「めし」なんだろう（●ヒャクロク）。ほかにも「メス」とエイゴでいうとイッシュクというイミがある。そんなこともあって、ゾクっぽい「めし」といういいかたはなくならないかもしれない。

ついでにいうと、「メッセージ」ということばも「メス」のハセイである。だからただしい「メッセージ」というのは「ごはん」のときに、とか「ごはん」でなにをたべたか、なにによって「ごはん」にありついたかなどをさすのだろう。その「ごはん」のときに「デングン」することがおおかったのだろう。そういうイがつよくなったとおもわれる。

ヒャクニジュウゴ

「イライラ」するなどという。ドキがこみあげている というようなヒョウゲンだ。でもこれもインテリ（「インテリ」はインテリジェントだろう。）がいいだしたことばだろう。「イラ」というのはラテンゴで「いかり」をさす。つまり、「いかりいかりする」わけだ（「カリカリ」するということばもあるが、それは「(い) かり (い) かり」するということかんがえられたことばかもしれない。）。くりかえしていうのだから、その「いかり」のどあいはずよそうだが、わりとしずかな いかりにつかわれるようにおもう。

ヒャクニジュウロク

みずブソクはつづく（●ヒャクジュウニ、ヒャクジュウサン）。もうサンネンもそんなかんじだから、マンセイテキなみずブソクなんだろう。ショクリョウをユニウするリユウがわかった。カカクキョウソウでコクナイサンのノウサクモツがまけてしまうからユニウはほどほどにというが、カカクキョウソウのまえに、みずがたりないからゾウサンできないのだろう。ホンキでジキュウリツをあげたきゃ、やすくみずをてにいれるか、うまくつかうようドリョクするヒツヨウがある。カイスイをタンスイカ（しおぬぎ）するギジュツがあるが、ユソウにてまどるからそうおおくはつかえないだろう。わたしは、ユニウうんぬんはともかくとして（しかし、いえにひきこんでいるというテンでユニウである）、ドリョクしている。ベンジョはむかしはくみとりシキだったのでみずをほとんどつかわなかった。くみとりにもどすのはカンタンではないので、ながすカイスウをへらしている。ダイベンヨウとショウベンヨウのレバーがベンジョのチョスイソウについていたがサイキンはそれをみかけなくなった。そういうドリョクははやらないのだろう。イッテイのリョウがながれるようになっていく。

ちょっとにおうが、サンカイにイッカイながすようにすれば、つかうみずのリョウはサンブンのイチになる。もっともイチニチにジュツカイテイドなら、ながれるみずのリョウをジュツタンイとして、イチニチヒャクタンイのところ サンジュツタンイほどになる。フロもつかからないであらうだけにすれば、ジュツタンイでたりる。ヨクソウにみずをいれるとヒャクタンイはこえる。ベンジョとフロでヨンジュツタンイのところをヒャクサ

ンジュウタンイになってしまう。それはゼイタクだ。センタクもまとめてすれば、イチニチジュウタンイのみずでたりるだろう。まああとさらあらいなどだが、それもジュウタンイですませればイチニチヒャクタンイもつかわない。そのくらいのドリョクをしている。

ヒャクニジュウシチ

はらがへるとしごとにシショウがでる。だから ショクジをして ホキユウする。たべすぎるとふとるが、あまりたべないと やせる。ショクジがタショウたりなくてもしごとはつづけられるだろう。ガマンとかそういうはなしだ。しかし、それがスウネンつづけばケンではないか。むかしのニホンはヨネンカンセンソウをしたことがある。ヨネンカンセンソウをしたというか、ヨネンしかもたなかったということではないか。センソウのまえ、ニホンジンはそれなりにロウドウもセイカツもしていたのだろう。つまりケンコウであったはずだ。

しかし、セキユのユニューがあぶなくなるとカイガイにうってでた（●ヒャクニジュウイチ）。それからはセンソウである。センソウははげしいロウドウだからショクリョウがタクサンヒツヨウだろう。テキとなったガツシュウコクはかたてまにセンソウをやっていたようでもあるが、くらべてニホンでは、わかものをグンにチョウヨウしたり、シゲンをテイキョウさせたりとソウリョクセンみたいなことをしていたとおもえる。それはガマンをキョウヨウしただろう。しかし、「ガマン」だけでつづくものではない。センキュウヒャクヨンジュウゴネンなつにはまけをみとめることとなった。センキュウヒャクヨンジュウイチネンからヨネンである。

そういうレキシから、ニホンジンのガマンはヨネンしかつづかないということができるともかもしれない。だから、セイジカがゴネンのガマンをもとめるセイサクをシュチョウしたらそれはジツゲンがコンナンであるということだ。

ヒャクニジュウハチ

わたしはガクセイジダイにジャガイモをあげたカシをつまみにのむことをおぼえた。イッカイソツギョウしよう（わたしとしてはである）とおもったが、サイキンでもつづけている。でも、そのセイブンには「シシツ（あぶら）」がおおいことにきづいた。つまり フツウのショクジイガイに それをたべていればふとるということである。また、しごとがいそがしいことをコウジツに、ヨウキつきのチュウカメンをたべていた。これもえらばなければ シシツがおおいのである。やっぱりふとるのである。だから、ジャガイモガシでのむのではなく、さきいかでのんだホウがいいし、ヨウキつきのチュウカそばでなくて、ごはんにつけもののホウがいいとなる。むかしは そんなことはあたりまえだったろうが、きがついてみるとそういうセイカツになっていた。

ニホンショクは ケンコウテキだといわれるらしいが、そういうショクジになっていなかったりしている。だから、みなおさなければならない。サイキンのチュウカそばは、あぶらがおおいものはやっているとくし、ニクも ニホンでは あぶらがおおいものがこの

まれるときく。わたしは そんなにあぶらがすきなわけではないが、そういうリョウリにあたることもおおい。だから、ジブンでクフウしなければならぬのかもしれない。あぶらブンをにこぼして あじをつけるとか、あぶらのおおいソザイをかわないなどのチュウイがヒツヨウなのだろう。そうしないと ふとってしまうからだ。タブンニホンのコウドケイザイセイチョウは、「シュフ」がささえたのだ。いまはセンギョウ「シュフ」がすくないから、ちょっとまえのようなケイザイセイチョウは クフウなしには むずかしいとおもわれる。

ヒャクニジュウキュウ

ことは「オリンピック」があるとしである。きのう、おとといからはじまったようだ。「はじめたようだ」というのは、わたしがジッサイにカンサツしたわけではないからである。テレビキョクが「なまチュウケイ」しているというが、それがホントウであるかはわからない。それは、たまにガイコクゴのツウヤクとかでひどいものがあるからである。ヒャクハチジュウド ちがうことを ホンヤクとしてヒョウジすることがある。テレビキョクにも ツゴウがあるからしかたないとかんがえているが、モンクをいうひとはいうのだろう。そんなだから あまり、テレビキョクにはカドなキタイはしていない。「なまチュウケイ」というなら そうなんだろうとおもいみている。

ヒャクサンジュウ

きのうははじめて「スイキュウ」というのをみた。ズイブンおよぐのだとおもったがそこそこおもしろい。そういうのだったら、ヨネンゴに トウキョウでタイカイをやるらしいから、みにいってもいいとおもった。みにいってもいいなどわたしがおもうのは、ラグビー、スイキュウ、テニスなどだ。しかし、チケットはどのくらいのカカクなのかとおもう。二、サンゼンエンでみられるならいいがゴセンエンとなるといきたくなくなる。テレビでもホウエイするだろうし、おなじジキにはコウコウヤキュウもあるからである。でも、まあ わざわざまだつかえそうな「コクリツキョウギジョウ」をこわして、またつくりなおそうとしているのだから そんなにやすいとはおもえない。コンカイのタイカイのテレビのホウエイヨテイをみても、テレビキョクは そんなにちからをいれていないような気がする。そうだとすれば、ホウエイケンリョウもそんなにとれないのだろうから、あかじでウンエイするのだろうと。わたしなんかはいいけど、チケットがたかければいけないかんじだ。ただ、ツウシンのハッタツで、パソコンでキョウゲツカなどをみれるから、テレビのやくわりはへるのだろうとおもった。ジッサイ、テレビキョクもちからをいれていないのかもしれない。

ヒャクサンジュウイチ

ゴリンチュウだから、ニホンジンセンシュがとったメダルのかずをホウコクしていたりする。くにベツでみると、やはりアメリカガッシュウコクがもっともとったメダルのかずがおおい。これはわかるようなきがする。タイコクだから。そしてチュウゴクもおおい。これもタイコクになってきたからわかる。ジーディピーでいうとこのニコクのつぎはニホンがあらわれるはずである。しかし、メダルのかずではエイコクがあらわれ、さらにほかのくにがニ、サンあらわれる。ジーディピーはつまるところニンゲンのロウドウだから（サイキンはキカイやコンピューターがふえているだろうが）、ジーディピーがたかいほどいいしごとをしているはずである。だから、ゴリンでもニホンのセンシュはカツヤクしそうなものだ。でも、なぜゴリンでとったメダルのかずがゴイイカなのか。それは、ニホンのホントウのジーディピーがホウコクされているスウジよりすくないからではないか。くわしくいうと、ニホンのホントウのジーディピーはホウコクされているハンブンのスウジテイドで、あとのハンブンは、おかねをひだりからみぎにながしてムリヤリスウジをあげているのではないかと。そんなだから、ケイキタイサクをしなないとスウジがひどくおちてしまうのでそれをやめられないのではないか。たてもものやドウロをつくるのではなく、ジツはおかねをひだりからみぎにまわすことがジーディピーをあげるためカンゲイされているのかもしれない。かりにエイコクのジーディピーがコウヒョウされたスウジよりおおいとしても、エイコクジンはよくはたらき、ニホンジンはエイコクジンよりははたらかないかタンにニホンジンのウンドウノウリョクがひくいといえそうだ。

ヒャクサンジュウニ

ニホンのチュウガッコウのエイゴのジュギョウでは、「ハロー」ということばをサイショのホウにまなぶ。でもエイゴをちょっとしつていれば、そのあぶなさにもきづく。なんといったって、ジゴクをあらわすゴ（エイチーエルエル）に「オー」をつけたことばだ。「ジゴクっぽいな。」「そうだな、ジゴク。」とかのろいことばといってもいい。しかし、「ジゴク」でなくて、ニバンめのつづりを「エー」でいうこともできる（エイチーエルエルオー）。ホンライテキには、そちらがただしいのだろう（どうもセイジンさま[エイチーエルエルオーダブリュから]）。それがあそびをくわえていううちに、「ジゴクでおあいしたかたですよね。」というようにいいかたができあがったのだろう。それが「かぼちゃまつり」にもつながる。「ジゴク」なんだからとヘンソウする。しかし、ニホンのチュウガクセイがまなぶのは、そのあそびがくわえられたホウのつづりだ。センソウでまけたうらみなのかわからないが、これでは「コクサイコウリュウ」どころではないだろう。

シャシンをとるときの「チーズ」というかけごえもそうだが（●『ア』ヒャクキユウ）、オウヨウからはいるともとがなんだかわからない。わたしもきづくのにニジュウゴネンかかった。「チーズ」は「ボース（ニシュルイのつづりがある。）」のオウヨウだ。チュウガクセイにいきなり、「おおアクユよ。」といういいかたをおしえてもしょうがないとおもう。

ヒャクサンジュウサン

ふるホンやはむかしからあるし、レイネンダイのあたりから おおがたのふるホンやもできてきた。でも、いわゆる コシヨというかタイショウイゼンのショモツを あつかっているみせはさほどおおくない（カンダにいけばベツだ）。サイキンおもうのが、タツピツでかかれたモジがよめないとエドイゼンのショモツがよめないということ。ニホンのばあい メイジキにインサツギジュツを ドウニュウしたのだろう。いわゆるカツジでかかれたものがみられる。しかし、それイゼンのホンはてがきなので、それなりの ケイケンがないと よめない。ケンキュウをするにはそういうホンをよめなくてはならないが、ガッコウでタツピツをよむギジュツはあまりおしえられていない。だから、よみやすい カツジのホン、ニホンではメイジキイコウのものだとか オウシュウのものだとかに ケンキュウがむかっていってしまうのだろう。

ヒャクサンジュウヨン

なつはあさになるのがはやい。ひるはあついから、レイボウキなどをつかわないと、しごとのノウリツがあがらない。はたけしごとは だからあさにする。オクガイまでレイボウはきかないからである。それなら もっとソウチョウから フツウのしごともすれば ノウリツも あがるとおもうがザンネンながら デンシャがうごいていないのでツウキンはできない。そのイッテンのためにわざわざレイボウをつかってしごとをするようになる。セキユのショウヒリョウがふえる。それをセツヤクするならやっぱりあさがたのやりかたにかえたホウがいいとおもうが。あるセンシンコクでは「なつジカン」を ドウニュウしている。たかがイチジカンらしいがそういうことだとおもう。

ヒャクサンジュウゴ

どうやら ノウギョウは まめにしごとをしないと シュウカクがあがらないらしい。ことしは はたけのザツソウをあまりとらなかつた。しそがよく はえたのであとでなにかにとおもったりもした。だが そのために、じゃがいものシュウカクリョウが へってしまった。やっぱり ヨウブンのとりあいなんだろう。ラインンからは ザツソウをとろうとおもう。

ヒャクサンジュウロク

「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ピンボウ」なのか、「ピンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないのかわからな

い。イッパンテキには「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないことと「ビンボウ」なのはカンレン（ヒレイ）するだろう。しかし、これらのどちらがききにハッセイするのはあまりセツメイされない。

あるひとは「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ビンボウ」というだろうし、あるひとは、「ビンボウ」はつぎのセダイにケイショウされる（つまり「ビンボウニン」は「ビンボウ」のまま）という。だから、「ビンボウ」をカイケツするために、「キュウリョウ」をあげようというはなしはよくきく。そうすると、「キュウリョウ」があがったから「ビンボウ」ではないというロジックだ。しかし、「ビンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないといういいかたはあまりしないし、「キュウリョウ」をあげずに「ビンボウ」をカイケツするようなはなしはあまりきかない。

わたしがおもうのは、「ビンボウ」なひとは ショクセイカツがまずしくながいロウドウジカンに タイオウできずにいて、したがってキュウリョウがすくなくなってしまうというジョウキョウがハッセイしているのではないかということ。それをカイケツするのは ショクセイカツをカイゼンするのがいいが、「キュウリョウ」がすくないと、ほかのセイカツヒもあるから、なかなかカイゼンしにくい。だから、「ビンボウ」と「キュウリョウ」がすくないというアクジュンカンがハッセイしてしまう。そこに「キュウリョウ」をあげるようなジョウキョウをつくると、「ビンボウ」なひとの ショクセイカツがカイゼンされるカノウセイがでてくる。しかし、そのあがったブンをテレビコウニユウにつかってしまうと、ショクセイカツはカイゼンされない。だからまた「ロウドウジカン」がすくないままになる。そうすると、そのひとをコヨウしているキギョウのフタンだけがふえる。それがわるいようにつづけば、キギョウのギョウセキがアッカして、サイアクのばあい トウサンしたり、ジンインサクゲンにふみきって、そのひとは カイコされるかもしれない。それではその「ビンボウ」なひとはさらに「ビンボウ」になってしまう。だから、キュウリョウがあがったブンをそのひとの ショクセイカツのカイゼンにつかわれるのなら（ショクセイカツのカイゼン、ロウドウジカンのエンチョウ、キュウリョウのジョウショウと）「ビンボウ」なひとの「ビンボウ」のカイゼンにやくだつが、ほかのなにかにつかってしまうようだとキギョウのフタンばかりがふえる。だから、ひとのリョウシンやリョウシキをしんじないのだったら、タンジュンに「キュウリョウ」をあげるのは さけるべきだろう。

「ビンボウ」なひとは「ビンボウ」なままだといういいかたもあるが、ニホンジンは センソウにまけて あまりゆたかでないジョウキョウからセンゴシュツパツした。かならずしも「ユウフク」になったとはいえないだろうが、それなりにセイチョウしたといわれる。チュウゴクも「ゆたか」になってきているという。だから、「ビンボウ」をカイゼンするのは、やりかたをまちがえなければ カノウだとおもう。

ヒャウサンジュウシチ

わたしは、サイキン デントウテキなニホンショクの チョウショクから とおざかってい

たが、ひさしぶりにナットウとたまごをたべた。おもいだしてみると、あとうめぼしとか（サイキンのベントウは うめぼしがみられなくなった。）、のりとか、たらことか、つけものがあつたとおもう。チュウイぶかくみると、たまごとたらこはドウブツのこどもがらみである。こうしたものを むかしは たべていたから ニホンジンのこどものかすがふえたのかとおもう。ジカンがあつたら、たまごやたらこのシュツカリヨウと ニホンジンの こどものかすのソウカンケイスウ（カンレンのつよさ）をケイサンしてみたい。サイキンのわかいひとは たべないから「ショウシカ」なんだとおもうのである。

ヒャクサンジュウキュウ

なぜサバクがあるか。ネンリョウなどに きを きりだしてつかい、それがテツテイテキにおこなわれ、サバクカしたともいわれる。サバクになってしまったら、そこにすむことはコンナンだ。いってしまえばカイシャのトウサンみたいなものだ。そのトウサンしたカイシャをたてなおすのは むずかしい。そのカイシャを てばなして ベツのところとうつりすんだりするだろう。しかし、そんなことばかり やっていたらトウサンしたカイシャばかりになってしまう。だから、みどりがたもてるようにセイカツするのがただしいだろう。また、みどりをサイセイできるならしたホウがいい。

ケイザイが コウチョウかどうかをみるとき、ジーディピーやシツギョウリツばかりをみるのではなく、そうしたメンをみるのもダイジだろう。いってみれば、イチジテキなセイサンリョクをみるのではなく、チョウキテキなケイザイリョクをみるわけだ。サバクカがシンコウしているとあれば、もうそのくにはもたないだろうなどと。

ヒャクヨンジュウ

ものはものなのか。ニチヨウヒンをペットのようにかっているひとはすくないだろう。それは、いのちでないからと タイテイのひとはいうのではないか。ドウブツはいきている。ショクブツも いきているという。しかし、ニチヨウヒンは そうでないという。だが、いのちというのはなんなのか。サイボウがフクセイされる コタイとはいえないか。もし それでいのちということによければ、ニチヨウヒンも いのちとよべるだろう。ニチヨウヒンは セツケイズをもとに（セツケイズがないニチヨウヒンもあるかもしれない。）コウジョウなどでつくられる。ゲンダイでは タイリョウセイサン されることがおおいだろう。それは イデンシにもとづいた サイボウのブンレツといえるかもしれない。ドウブツも ショクブツも シゲンがなければサイボウブンレツは おこなわれぬが、ニチヨウヒンもそうだ。コウジョウにシゲンがあつめられるから フクセイされる。フツウのセイブツはそのものなかに フクセイするキコウをもつとされているが、もし、ニチヨウヒンのフクセイキコウ（コウジョウ）を ガイブにもっていても いのちということができれば いのちではないか。タンジュンにいえば、ニチヨウヒンはコウジョウと セツで いのちなのである。だから、ロボットも コウジョウとセツで いのちだろう。ビョウイン

とセットでいのちのニンゲンもいるわけだから、ニチヨウヒンをペットにしてもいいの
だろう。ペットというより かわいがってあげるようだ。

ヒャクヨンジュウニ

サイキンショウガにチュウモクしている。ショウガやきもあるし、さかなのやきものにも
ついていたりする。むかしはそのイミがまったくわからなかったが、じゃがいもをあ
げたカシばかりたべて シボウを たくわえてしまったせいかわかる。さっぱりして
シヨクがすすむのである。たべあきたようなりヨウリも ショウガをつかってたべるこ
とができるのではとおもっている。ニホンのシヨクザイのばあい、わさびやダイコンおろ
しもある。

ヒャクヨンジュウサン

であいというのはフシギである。そのゴのジンセイをきめてしまったりする。ここでい
う であいとは シィディとのであいである。もっとも わたしのちいさいころにはシィ
ディなんてなかった。いえにはレコードプレイヤーとラジカセがあった。おやじがカラ
オケのおとを ながしていたので なんとなくうたをおぼえてしまった。シィディは キュ
ウジュウネンちかくなってみられるようになってきた。

どういうリユウで シィディをかうか。ザッシのショウカイとかテレビにでていたからと
か。はじめはそんなかんじだった。しかし、よりよいのかおうとすると、ジッサイに
かってみるしかなかったりする。それはシッパイのカノウセイもあるのだが、アンガイ
シッパイしなかった。イツカイシッパイしたテイドである。シィディについているえを
みると、ダイタイこのみのものかどうか わかるようである。わたしがチュウガクセイの
とき、それで おおあたりして、いまでも そのアーティストのケイレツを きいている。

ヒャクヨンジュウヨン

ジンルイシのショキには「アイ」はなかったようにもおもう。「アイ」がなかったという
よりも、「アイ」というコンセプトがなかったんだろう。「アイ」があればセンソウはお
きないかもしれないが、レキシをみると たびたびセンソウがおこっている。トクに、ニ
ジュッセイキのセンソウはおおきかった。だから セカイタイセンなどとよばれる。じゃ
あニジュッセイキの ひと「アイ」がすくなかったのか。ヘイワなジダイにくらべて「ア
イ」がすくなかったかもしれない。なぜニジュッセイキのひと「アイ」がすくなかつ
たのか。ジンルイやジンルイの「アイ」は シンボしてもよきそうである。

ひとついえそんなことは、「アイ」を「かね」にかえるようになったのではないかとい
うこと。いってみればシホンシュギのヘンカである。ウェーバー（ドイツのシャカイガク

シャ)さんはキンヨクテキにはたらく キリストキョウのカイカクハがシホンシュギをハツタツさせたといったが、そのケツカは たしかにシホンシュギをハツタツさせたかもしれないが、そのひとたちが ぐらすくにはシヨクミンチをもつようになった(ていた)。そこからゴウインなサクシュもしただろう。それなら、キンヨクテキなひとのはたらきというよりも、カクトクした シヨクミンチのとみがシホンシュギをゆたかなものにしたんだらう。サクシュがあるようなケイザイタイセイは(そのタイセイをシジするひとは)「アイ」があるとはいわない。

なぜ シヨクミンチでサクシュしなければならなかったか。ひとつはロウドウケイザイのヘンカだとおもう。つまり コヨウされるひとの「アイ」、わかりやすくいうと、ジカンをコヨウシャにあずけ、かわりにかねをうけとるという「アイ」を「かね」にかえるロウドウがタスウをしめるようになり、また、そのキギョウタイは、ほかのキョウソウアイテときそうようになっていたのだから(コジンケイエイのシヨクもあっただろうが、すくなくなっていたのではないか)。そうすると、われさきにとほかのチホウでサンシュツされるケンエキをカクトクするようになるだろう。イッポウ、コジンショウ(ジエイギョウシャ)は「アイ」をたもてていたともおもえる。ロウドウシャをコヨウするキギョウタイのシヨウウシャはあつめた「アイ」で ゆたかなセイカツをおくったかもしれないが(だだし、かねは でていった)、ヒコヨウシャは「かね」をうけとるかわりに「アイ」がすくなくなる。つまりあれるのである。ダイタイ、キギョウのシヨウウシャよりヒコヨウシャのホウがおおいから、かずのモンダイでシャカイはあれていく。キョウカイもちからをうしなっていたときく。

ニジュッセイキには ミンシュシュギを とるくにがおおかったからそれはセイジにハンエイされる。だから、センソウがおきたのだから。ハンセイとして、「アイ」はあれるテイドに「かね」にかえないようにとか、いくらシャカイがあれてもセンソウをしないようにとか あれたシャカイを なだめるしくみをつくるようにとかが いえるとおもう。

ヒャクヨンジュウゴ

ちょっとまえまでは からになったのみもののピンをみせにもって行って、ヘンキン(ピンダイ)をうけとったものだ。しかし、サイキンは(ケースでかうビールピンなどはまだそれをやっているかもしれないが)カンだとか、ペットボトルにのみものをつめてうっている。たしかに それなら ヨソウチュウにわれたりもしないし、かるいのだから。それらは ごみとしてリサイクルコウジョウにおくられるらしい。だが、そうしてしまうと、ごみがふえる。またモンダイなのが、ジュウタクなども イツカイばらしてあたらしいのをつくらうとなる。それは カンや ペットボトルでそうしているのだから すんなり うけいられるのであろう。むしろ、それしかかんがえつかないかもしれない。

しかし、ヨーロッパの いしづくりのたてものなどは ジュウミンとカグをいれかえれば ほぼいつまでもつかえるだろうし、モクゾウのジュウタクもながくつかうらしい。そうたびたび ばらして あたらしくするんじゃヒヨウもかかるから おかねもたまらない。そういう すててあたらしくかうというには きをつけよう。コーヒーや シャンプーなどは

つめかえシキのものがあるから そうしている。ペットボトルがうれれば、ドケンやがもうかる ではしょうがなさそうなのである。

ヒャクヨンジュウロク

どこどこジンと なになにジンのコンケツのことを「ハーフ」という。「コンケツ」といっても「ち」がまざっているのではなくて、イデンジョウホウという セッケイズがまざっている。こういうひとは「コクサイカ」のシンテンにともないふえてきているだろう。しかし、つぎにあげるひとは「ハーフ」とよべるだろうか。ニホンサンのこめをたべ、アメリカガッシュウコクサンのニクをたべているひとたちである。

イデンテキにはニホンジンだとして、ニホンのこめをたべるわけだから、からだのセイブン（イデンジョウホウでない）はハンブン ニホンセイである。ところが、アメリカガッシュウコクサンのニクをたべるので、からだのセイブンのハンブンはガッシュウコクセイとなる（ランボウな いいかただが。）。そのひとはジュンスイなニホンジンとよべるのだろうか。こういうひを「コンニク」ということにする。ゲンザイは、コクセキなどはケットウシュギで きめられるために、ギョウセイテキにいえば このひとはイデンシが ニホンジンゆえにニホンジンとされる。だが、セイブンからいえば、「ハーフ」だろう。ジンタイの「セッケイズ」がダイジなのか、「ゲンブツ」がダイジなのかむずかしいモンダイである。

ヒャクヨンジュウシチ

レキシをみても、タクエツしたカガクシャや シソウカはいたといえるだろう。あまりにすごいと、テンドウセツから チドウセツへ などとひとの ニンシキやセイカツをかえてしまう。サイキンだと、レイゾウコのハツメイなどがそうかもしれない。ベツになくても ダイジョウブではあるが、あったほうがベンリであろう。すごいひとがかんがえたのだろう。しかし、チドウセツなどは セツメイされても わかったりわからなかったりだろう。だからすぐにはリカイされなかった。ケツキョク、あたらしいなにかは、よのなかのシュリュウの「ジョウシキハ」がみとめないようでは よいセイカといえないのではないかとおもう。

ダイタイ すごいハツメイをするひとは フコウなんじゃないかとおもう。センタンのケンキュウをするよりも、ジョウシキテキなケンキュウのホウが シジをえやすい。でもそういうのは あまりにジョウシキテキだから、「そんなのはあたりまえじゃないか。」でおわってしまう。だから、ちょっとあたらしくて、ほとんどジョウシキテキというケンキュウがおおくなるのか。そういうのを「カイゼン」とよんでいるきがする。フコウになることをカクゴして、センタンテキなケンキュウをやることもできるだろう。ユウフクなカテイのひとならそんなことをしなくてもいいが、そういうひとばかりだとシンボがなくなる。セイヒンもユニウばかりするようだと、やがてボツラクするだろう。

ヒャクヨンジュウハチ

いいカンキョウだと、しごとがはかどる。わるいカンキョウだとみのキケンをかんじたりしてしごとははかどらない。いいしごとをしたきやいいカンキョウをつくるのがいい。ヨーロッパなどでは、ナンミンがはいてきてちょっとカンキョウがかわってきているのだろう。だから、ひとにはシンセツにしたホウがいいとおもいつつもフマンがつわる。だれにも やさしくできるのは すごいが、わたしなんかはそうはできないとおもってしまう。だから、ジョウシキテキなカイケツでいいのではとおもう。「ミンシュシユギ」のいいところは「ジョウシキ」にといかけることなのだから。サイゼンではないかもしれないが、まあまあだろう。タブン、ヨーロッパのひとたちのジレンマは、みすててしまつてよいのかということではないか。わたしなんかは できるかぎりのことをしてあげればいいのではなかとおもう。たしかになやましいが、できるイジョウのことはできない。ただ、そんなやませるブンカは いいブンカなんだろう。

ヒャクヨンジュウキュウ

いやなことがあったりする。しかし つぎのシュンカンには そのいやなことをわすれてわらっていたりする。ジブンやジブンのセイシンが あたらしいジカンジクにながされているのか いやなことが カコのホウにながれているのかはわからない。しかし、イチドもおもいださなければそのいやなことは カンゼンにわすれられるだろう。

エイゴのベンキョウをしていると、ラテンゴがたまにでてくる。また、ラテンゴから ハセイしたタンゴもおおい。ラテンゴはローマジダイから つかわれていたとおもうが、そのゴ さらに スペインゴやフランスゴや エイゴなどが できていったとおもう。タブンローマのシハイがよわまるにつれて それらのゲンゴがハツタツしたのだとおもう。ただ、ローマジダイからタショウのチホウゴはあったのだろう。いまでは、ベツのゲンゴ、ベツのコッカというわけである。イタリアゴというのもある。ローマがあるのになぜともおもう。しかし、ニホンにも コゴというのがある。なぜおなじチイキであるのにもかかわらず コゴと ゲンダイゴがソンザイするのか。こたえは さかえていた トシのちがいにあるかもしれない。

イタリアでは レキシテキに ローマがつよかったが、やがてホクブのトシのホウがつよくなった。ニホンでは レキシテキにカンサイがつよかったが、トウキョウがつよくなった。そのつよさをヒョウゲンするために ことばもベツにしたというかんがえかただ。また、かつてつよかったチイキが またもっともつよくなったら、むかしのことばをつかおうというキウンになるのであろうか。

ヒャクゴジュウ

ニンゲンのレキシは シハイと ドクリツでかたれるかもしれない。あるチイキで シュリュウハとカットウがあるひとたちは ドクリツして あたらしくくにをつくったりする。

どこかに つよいくにがあると、そのくにがよわくなったときに ブンリドクリツしたりする。なぜドクリツするかというと、ドクリツするだけのリュウがあるのだろう。そうするとあたらしいブンカが うまれていく。それを ひと は シンカだ シンポだいうかもしれない。

シヨクブツやドウブツのレキシも アンガイ そうなのかもしれない。シヨセツあるだろうが、チキウのゲンシヨはいわがもえているとかそういうのだったろうから、タンサイボウセイブツができて、くさができて、むしができて、ヨンソクドウブツができてとブンリ、ドクリツを ナンカイもつづけたのだろう。だから、ニンゲンももっとシンカするかもしれない。しかし、ニンゲンには、シハイというのがあるのでそうシンカするとはかぎらない（クローンのひつじをつくっただけでおおさわぎになる。）。

チュウゴクのレキシは、だれかが うえにたち、そのだれかが つぎのひとにとってかわられるまで シハイする というしくみをえがいている。しかし、あまり ドクリツさわぎにはならなかった。なぜか、ひとびとがシハイをみとめるか、シハイにつきあったからであろう。さらに、チュウゴクで、あたらしいなにかが できなかつたとはきかない。シンポはあったということだ。いってみると、ニンゲンの「シハイ」は「シンカ」をもシハイしてしまおうとするのかもしれない。だから、シハイがつよいところではなかなか えだわかれした シンカや ドクリツは むずかしいのだろう。

ヒャクゴジュウイチ

みなみのホウにいくと、にこんだキウニクをのせたチュウカそばがある。これがうまい。また、あげたぶた（トンカツよりすあげにちかい）をのせたチュウカそばもある。これらは「ニク」がのっている。ニホンでは、ニクがのっているものがすくない。なにがいたいかという、ニホンの「ラーメン」はエイヨウがすくないということだ。エイヨウをかんがえると、チャーシューがたくさんのもしかセンタクシはない。「エイヨウはなくてもそれがいきなんだよ。」といわれるかもしれないが、やっぱりエイヨウがあったホウがいい。だからかんがえてみた。それが「かばやきそば」である。「かばやき」といってもうなぎのでない。さんまである。うどんのためしたがまあわるくないようにおもう。エイヨウがすくないままでは、ラーメンをたべにくいので そういうクフウをしてラーメンをたべようとおもっている。つぎは「さばみそそば」をやってみようとおもう。

ヒャクゴジュウニ

ことしは、じゃがいものほかに、キャベツと えだまめと ほうれんそうをうえてみた。キャベツは まあまあ そだったが、えだまめと ほうれんそうはよくできなかつた。よくできなかつたというよりも、「むし」にくわれてしまった。もっともそのふたつをそでて

るのははじめてなので、まあ そんなものかとおもった。ニラなんかは つよいのにおもうが、まあ「つよい」「よわい」のモンダイとはベツに「むしのツゴウ」があるわけだ。ケッキョク キャベツもむしがたべてしまった。ことしは はたけしごとを まめにしなかったのてそういうケッカとなった。そういう「ニンゲンのツゴウ」がほかの「むし」だのなんだの「ツゴウ」にユウセンされるわけではない。きちんと ザツソウとりもしないとシュウリョウがおちる。じゃがいもがそうだった。もっとこまめにていれなければならぬようだ。

ヒャクゴジュウサン

「ブンカ」というのはかわって行くもの、いや、デンジュされなければ つたわっていかないものとおもう。ふと きづく、ニホンシュを コップでのんでいたりする。ダイタイわたしがいく のみや は そんなものであまりきにしなかった。しかし、あるところでは トックリとおチョコがでてきた。しかし、ゆのみのホウがつぐてまが はぶけるとおもい それをつかってのんでしまった。

おもいだしてみれば、おやじは ちゃんと おチョコで のんでいた ようなきがする。リッパな さかずきで とはいわぬが、おチョコをつかってのむと デントウテキなんだろう。

ヒャクゴジュウヨン

いぬをかったことがある。リッパなケツトウでなくて、ザツシュというやつだ。まあ、シバケンとなにかが まじっていたのだろう。ちいさいときにいえにつれかえってくると、よるにないていた。かまってやるとなくのはおさまるのだが、よなかにずっとおきているわけにもいかない。かわいそうだがそのままにした。

おやじがおしえたのか いつのまにか、「おすわり」というとすわるようになっていた。えさをおいて、そこでたべずにまつ「まで」もおぼえた。やっぱり そとのシゲキもほしいのか、サンポにつれていくと、やけによるこんだ。トウジはわたしもわかかったのて、はしったりもした。

こまるのが、いえから にげてしまったときである。つかまえようとしてもにげてしまうので、えさで おびきよせたりしないといけぬ。しかし、それもメンドウである。かまわずに いえでまわっていると かえってくる ことがわかったのて、まあ、モンダイはあるが、そうすることもあった。

「ふせ」といって、からだを ふせることも おぼえた。コンキよくおぼえさせれば おぼえるものだ。ただ、サイキンののはやりは、エイゴでドウサをおぼえさせるのではないかと おもう。ただ、おやじも おふくろもエイゴをつかわなかったから ニホンゴでいいのだ。

ヒャクゴジュウゴ

「うさぎと かめ」のはなしはおさないころに きいたことがあるが、このとしになって はじめてイソップドウワをめぐった。はじめにしるされてあったのは、「しか」のはなしで あった。イチワジュウギョウテイドで おわっていたがかんがえさせられるものがある。 トクギをもつものは トクギにおぼれてそのほかのことを わすれてしまう というように わたしはカイシャクしたが、みじかいブンだと いろいろにカイシャクができる。つまり ジュウドがたかいのだ。

ヒャクゴジュウロク

ヒッキョウシがハツメイされたことにより、ひとはそのかみにキロクするようになった。 それによって、チョウブンをキロクすることも カノウになったのだが、ひとつのことを ながながとかくようになつたともいえる。そうするとその「ひとつのこと」はショウサイ に シュウシヨクされ、マルさんがそのブンをみておもう「ひとつのこと」と バツさんが そのブンをみておもうその「ひとつのこと」は ちかづいてくる。よりおおくその「ひ とつのこと」をしるせば、マルさんとバツさんのおもう「ひとつのこと」はよりちかづ くだらう。わかりやすいレイが ホウリツである。ホウリツのブンがみじかいと、それぞ れちがったカイシャクをするが、ながいと カイシャクのはばがせばまってくる。なにが いいたいかというど、ブンがながいと、キョウツウニンシキができやすいということだ。 それをケイモウシュギというかはともかく、「かみ」と それをつかうリョウをふやすこ とで、「キョウツウニンシキ」がハツタツした。それをガッコウでまなぶというのが メイジイコウのニホンのやりかただらうか。その「キョウツウニンシキ」のために、たとえ ばホウリツによってヘイワがもたらされる。しかし、ショウバイは、「キョウツウニンシ キ」だけではなりたたなかつたりする。タンブンの ジュウドもいいものである。

ヒャクゴジュウシチ

みのむしのはなしをした(●キョウジュウシチ)。サイキンわたしはみていない。ニンゲ ンが みのをきなくなったから、みのむしも「みの」をまとわなくなったのではないかと おもう。いぬもそうだ。ショウボウシャがちかくをとおると、とおぼえをする。だれも なにもしなかつたら、いぬはほえないのだらうとおもう。メイジジダイのキジュツにも (やなぎだくにおシ「メイジタイショウキ」)「シンヤたぬきが キシャのおとをまねて テ ッドウの うえをはしるというはなしがあった。」とある。

うそか ホントかはともかく、ニンゲンの やることはほかの セイブツにもエイキョウを あたえたのだらう。ただ、うちのいぬは「テレビ」をみるにはいたらなかった。そういう イミでは、「テレビ」はニンゲンのコミュニケーションなのだらう。いぬとか とらをガメ ンにうつせば、いぬも ハンノウするかもしれないが。

ヒャクゴジュウハチ

まえのチョ『アルクカラカンガエル』では、「バカ」ということばはセイヨウの「バカ（バカンスなど）」からきているのではないかとシテキした（●『ア』ヒャクヨンジュウニ）。たしかに「カラッポ」というイミもありそうだが、コンカイはモジでいう「バカ」のはなしをショウカイする。

シン（チュウゴクでおこったテイコク）のシコウテイ（「コウテイ」というショウゴウをつくった。そのまえからあった「コウ」というゴウと、「テイ」というゴウをあわせた。）のこであるニセイコウテイのジダイにチホウでハンランがおき、なかなかチンアツできないでいた（そのなかにつぎのジダイにクンリンするひとがいた [コウウとリュウホウだ]）。ニセイコウテイもジシンをカコのイダイなオウなどとヒカクし、「なにをもってかくらいにあらん。」といていた。

ジツは、そのときは、ダイイチのハイカのチョウコウがキョウフセイジのようなことをやっていた。ジブンへのシジをためすためにかチョウコウは、ニセイコウテイのまえにしかをさしだした。しかし、チョウコウはそれをうまという。ニセイコウテイは、「ジョウショウ（チョウコウのヤクショク）、まちがえるか。それはしかだ。」という。しかし、チョウコウはほかのコウテイのシンカをためしていた。あるシンカは「しか」といい、ほかのシンカは「うま」という。モチロン、「しか」といったシンカはチョウコウによってころされた。これが「バカ」のユライだとおもう。

そのゴのシンは、ニセイコウテイがチョウコウによってころされ、サンセイコウテイはチョウコウをころし、やがて、ハンラングンをひきいていたコウウ（のちのハオウ [ハというゴウとオウをあわせた。]）によってころされ、ソのジダイになった。

ヒャクゴジュウキュウ

「コセキ（カゾクのかずなどをキロクするもの）」もテイコクになるまえのシンがドウニュウしたものである。シンはほかにグンケンセイをドウニュウした。つまり、シンがトウチすると、「オウ」はいらなくなるのである。シンのトップイガイはコウムインになるわけだから。ほかにもホウリツ（ケイホウ）をドウニュウした。ただ、それをティアンしたエイオウは、オウのこ（タイシ）がおかしたつみをかばったゆえにころされてしまったのだが。パンリのチョウジョウもそうだがシンはいろいろのこしている。

ヒャクロクジュウ

まえから「ラーメン」は、エイヨウがたりないとおもっていた。レイガイテキにチャーシューがのったメンがあるが、まあそのほかのものはそうだろうと。スープはいいものができているとおもうので、ニクものをたしてみようとおもっていた。ミソラーメンにチョウセンヅケをくわえて、さらにさんまのミソニをくわえてみた。なかなかおいしかった。さばでもいいのかもしれないが、さんまでやってみた。イッシュクブンのエイ

ヨウはとれる。

ヒャクロクジュウイチ

しごとをする。おかねをかせぐ。ここまではいい。フツウのロウドウシャのすがたである。そのおかねをチョコキンにまわすとどうなるか。むかしはともかく、いまはテイキンリなので、イッパーセントもリシがつかない。トウシにまわすとどうなるか。ゴパーセントでまわしたジュッパーセントでまわしただと、ジュウネンでガンキンがニバイになる。なんのことはない、そういうことなのだ。

ジブンのしごとをこなしてキュウリヨウをもらうだけではイチバイのしごとである。しかし、おかねにもかせいでもらえば、もっとセイカツがゆたかになる。だから、いまのジダイはチョコキンではだめなのだろう。そのおかねのウンヨウのしかたでセイカツにさがでるのだ。

ヒャクロクジュウニ

ナットウはにがてなひともいるときく。わたしもそんなにトクイではない。かきまないでたべてしまうホウだ。そのナットウにからしだけでなくラーユをいれる。あかナットウとよぶことにする。これもおいしい。

ヒャクロクジュウサン

「みずはジュンカンする」などという。タンジュンにいえば、チジョウのみずがジョウハツして、あめになってふるというものである。たしかにフロにはいっているとみずがジョウハツしたのかテンメンにしづくができる。しかし、なぜそうなるのか。ショウガッコウでは、みずはヒャクドシーでジョウハツするとおそわった。ヒャクドシーでキカするというわけである。ジッサイにフットウさせて、オンドケイではかったおぼえがある。

だが、フロのゆはヒャクドシーにカネツするわけではない。せいぜいヨンジュウゴドシーだ。うみやいけのみずだってそうだ。ヒャクドシーにカネツされるわけではない。なにになぜジョウハツするか。ひとつのかんがえかたは、 Netzが ブブンテキにヒャクドシーにタッして、みずがジョウハツするというかんがえかただ。もし、そのように Netzが イッカショにあつまるのなら、そのブブンでないみずは Netzをうばわれてニジュウドシーとかに（もとのスイオンがサンジュウドシーだったとする）なるのではないか。もうひとつのかんがえかたは、ヒャクドシーでみずはキタイにかわるというのはうそ（うそというかヒャクドシーでキカがカンリヨウするということころだろう。ヒャクドシーでもジョウハツするとか。）で、ジョウオンでもみずはキカするというものである。

たしかにヒャクドシーでジョウハツする。だが サンジュウドシーでもジョウハツするとかんがえる。どういふことかという、みずは キオンよりオンドがたかければ、ジョウハツするし、キオンより オンドがたかくなければジョウハツしない となる。これなら、なぜホッキョクのホウでゆきがふるのかをセツメイできる。なぜゆきがふるか。それは、ふゆにゆきがふるチイキでは、キオンよりスイオンのホウがたかいことがおおいのだ。だから、みずがジョウハツして、サイドひやされてゆきがふるということだ。みずのジョウハツがヒャクドシーでおこるとかんがえていたら ゆきがふることをセツメイできない。

ヒャクロクジュウヨン

シィディをジャケットがい（えがかれている [え] をみてえらんでかう）をして このみのオンガクにあたってから、しばらくヨーロッパのバンドのシィディばかりかっていた。アメリカガッシュウコクのバンドのシィディもかったが、ヨーロッパのバンドにくらべると、ガッシュウコクのバンドはメロディをそんなにタイセツにしないというイメージがある。もっといってしまうと、ガッシュウコクのバンドはあかるいというインショウがあったりする。もっとも、いまでもセカイケイザイをリードする ガッシュウコクジンがくらかったら、シンパイになってしまう。そういいながらも、くらいメロディというか、ヒョウゲンとしてただしいのかわからないが、エンカっぽいものをすきこのんできいていた。いまでもすきだが、やっぱりタショウかわったのか、くらいのぼっかりだとちょっととおもう。いやなことがあったときまでくらいキョクというのはつらい。かといつて、ニホンのわかいおんなのこたちがうたうような、とにかくあかるく いきましょう、みたいなのはどうなのかとおもう。そういう「いきおい」みたいなものではなくて、あかるいキョクをうたうアーティストがガッシュウコクにもいるし、ニホンにもいるのは よかったとおもう。

ヒャクロクジュウゴ

「ウェイター」とか「ウェイトレス」とかいう。「アクター」とか「アクトレス」ともいう。これは、ダンセイのショクギョウなどのやくわりをあらわすことばにタイして、ジョセイのばあいについてことばとしてクベツされている。もっとも、サイキンは、「ステュワード」にタイしての「ステュワーデス」ということばをいわなくなっているようだ。なぜそういういいかたをしなくなるか。そのクベツはフロイドセンセイのはなしをおもいおこさせるからかもしれない。つまり、なにかがあるとか、ないとか。そういういいかたをしなくなっているわけだから、セイシンブンセキはあまりはやらなくなっているのではともおもう。このレイのばあい、イッポウに「ことば」のみじかさがあって、もうイッポウには「ことば」のみじかさがなく、「ない」があるほうは、「ある」にあこがれるということだ。タンに「ことば」のモンダイだが、「ある」ホウにトウイツすれば、ジョセイ

はなにかをてにいれるかもしれない。ジョセイのシャカイサンカクをとよくいわれることばである。フロイドセンセイのはなしではないが、ジョセイはこどもをうむキノウをもつわけだから、ダンセイはそれが「ない」というギロンになるかもしれない。そういうのをひとつのことばでいおうとするから、「どっちのセイかわからない」というひとがでてくるようなきがある。

ヒャクロクジュウロク

もうすぐネンマツである。タブンこのズイヒツがシュツパンされるのは、としあけだから、「キョネン」となっているはずだ。ネンマツには、てらがことしをあらわすイチジをえらんでハッピーウしたりする。あのてらでハッピーウされるイチジがわたしのおもうイチジとイッチしたことがない。もっともナンマンジあるなかの（よくつかわれるのはナンゼンジらしいが）ひとつをえらぶわけだから、そうそうあたるものではないが、たからくじにあたるよりかはカクリツはたかい。イツカイケイサンしてみたら、たからくじがあたるよりも、チキウガイからふってくるインセキにあたるカクリツのホウがおおきかった。それらよりイチジをあてるカクリツは たかいのにである。

ヒャクロクジュウシチ

ことしのはるに キャベツをうえたらむしがほとんどたべてしまった（●ヒャクゴジュウニ）。ムノウヤクノウホウだからしょうがないというのだが、また、あきに キャベツをうえたら、こんどはむしはたべていない。そのかわり、はくさいがたべられている。もしかすると、いけにえのひつじではないが、なにかをケンずれば、ほかのやさいがたすかるのかもしれない。まったく、「むしのツゴウ」と「ニンゲンのツゴウ」である。

ヒャクロクジュウハチ

シヨクタクに のりがあるとよりおいしく ごはんがたべられる。だが、サイキンおチュウゲン、おセイボウりばで のりをあまりみないきがある。むかしはカンにはいった のりをよくたべたものだ。のりはうみでとれるらしいが、いまのトウキョウで とれるのだろうか。おふくろがこどものころ のりづくりをてつだったはなしを きかせてくれた。トウキョウでつくっていたらしい。「えどまえ」というやつだろう。つくだにもあるからやっぱり とれていたのだろう。いまはわからないが。

ヒャクロクジュウキユウ

ダンセイとジョセイの「ある」、「なし」ばなしについていうと、ジョセイには「ながいかみ」があるといえるとおもう。その「ながいかみ」は、エイゴで「トレス」というよう

だ。それから「アクトレス」などを（「アクト」たす「トレス」）、よりちぢめて、「ステュワーデス」（「ステュワード」タス「(トレ)ス」などにことばができていったのではないか。だとしたら、フロイドセンセイがなにかが「ナイ」といっても、「ながいかみ」があるといえばよかった。ゲンダイの「ある」、「なし」をとわないやりかた（サービスマンでも、サービスウーマンでなくて、サービスパーソンのようないいかた [●『ア』ヒャククロクジュウ])をつづけるのもよいが、このような「ある」、「なし」ロンギにおわらせてもいいのではないか。

ヒャクナナジュウ

ガッキがシュミだとヘイキでゴマン、ジュウマンとでていってしまう。そんなことをやっているからおかねがたまらないし、へたをするとショクジまでヒンジャクになる。さすがにわかいたきのように、ラーメンをレンゾクしてたべるようなまねはできない。すぐにエイヨウブソクでうごけなくなってしまうからだ。だから、ベツのシュミをさがしたりしている。まだゴセンエン、イチマンエンなら、ガッキよりましだ。イゼン、マンネンヒツをためたことがあったので、サイキンはそれをまたとおもい、つかってみたかったインクつぼをかってきた。ゲンダイテキなセイカツだと、インクをわざわざふでさきにつけてかくことはすくないが、ショドウのおぼえがあるので、すずりをつかうカンカクでわりとイワカンがない。きにいつている マンネンヒツでまあ かいいたりしている。ただ、マンネンヒツもナンジュウマンとするものがあるようだ。きをつけないといけない。

ヒャクナナジュウイチ

ヒャクマイのノートというところそこあつさもあるし、なかなかつかいきるジシンがなかったが、こうしてズイヒツをかきはじめてから、ヒャクマイはそんなにおおいクウハクがあるノートとは おもわなくなった。イチネンぐらいすこしずつつかっていると、うまってしまうのだ。もっとマイスウのおおいノートをつかいたくなかったが、ほとんどセンタクシがないようだ。だからまたヒャクマイのノートにかくかとおもっている。シュツパンのばあい、ゲンコウヨウシにかくのがフツウなのかもしれないが、サイキンわたしはつかっていなかったし、よこがきのホウが なれてしまったのでこれでいいとおもっている。

ヒャクナナジュウニ

おおみそかは ネンにイチドのうたばんぐみがあったり、ユウメイカシュたちは、としこしコンサートをもよおしたりしている。そういうのがあつてかケッコウたのしめるひだとおもっていた。しかし、としをとると、そういうのは、わかいかシュばっかりうたっ

ているようにおもえて、あまりたのしめなくなってきた。しょうがないからそのジカン
はジブンのシュミにキョウじるかともおもう。わかいひとむけじゃないジンセンならい
いのだが、まあしょうがない。

ヒャクナナジュウサン

なぜかテレビにセツゾクされたシロジにあかくソウショクされたはこがよくおもえた。
そのゴ、バクハツテキにはやったビデオゲームのキカイである。わたしがヨウチエンに
かよっていたころにはじめてそれをみた。タブンナンドもみたのだろう。とにかくき
になっていた。もっともそのまえに、デンキテキにヒョウジされるゴルフゲームとかをつ
かっていたりもしたからテレビのキカイとゲームのキカイをセツゾクすると、なにが
できるかソウゾウがついたのかもしれない。それからニネンほどでそのキカイをてにい
れた。トウジのショウネンむけザッシなどでショウカイされていた。コウリヤクホウな
んかもおぼえている。それからイチネンたつと、そのうでまえをきそうタイカイがひら
かれるようになった。しっているともだちなんかは、ほとんどのこがそれをもつよう
になっていた。なぜそんなにニンキがでたのだろう。それをもっていないと、ともだちか
らはずされたのだろうか。そのゴニジュウぐらいになるまでそれをつかっていた。もっ
とも、たまにあそぶテイドになっていったが。トチュウでよりコウセイノウのゲームキ
がハツバイされて、それもかった。ベツにコウセイノウじゃなくてもよかったが、ニン
キのあるゲームはつきつぎとコウセイノウなゲームキのホウにうつっていった。そう
いうゲームをやりたかったらかうしかない。こんなようだから、おこづかいがどんど
なくなってしまう。

コウコウジュケンするときも、ゲームをしながら、ゴウカクツウチをまった。そんなかん
じではうかるわけがないといまではおもうが、まあわたしはそんなチュウガクセイで
あった。コウコウセイになってからは、ガツキをホンカクテキにやりはじめたので、そ
ういうゲームをするヒンドはちいさくなった。オンガクをつくるキカイをかってそっ
ちにうちこむようになったからだ。いまではほとんどそのてのゲームはしないが、それ
でよかったのだろうとおもう。

ビデオゲームは「ケッカ」をのこさない（ガメンにヒョウジされるだけだ）が、オンガク
はキョクやうたなどの「ケッカ」をのこす。あまり「ゲンソウ」にひたっけていても
おもうのである。でも、そういうゲームをやったセダイだから、いまでもつづけてい
るひともいるのであろう。そういう「キョウクン」をカクトクさせてくれたのだから、
いい「センセイ」だったかもしれない。ジブンのアクティビティをソウサする「ゲーム」
はまだまだのうでまえである。

ヒャクナナジュウヨン

なぜニホンでは「エンカ」がニンキあつたりするんだらう。いわゆる「サビ」というや

つである。イッポウ、わかいひとはやたらあかるいキョクを うたったりする。わたしは、わかいひとのあかるいキョクよりもエンカをききたいとおもう。センソウがあって、くるしいセイカツがつづいたからあろうか。たまにきくのならちょっとあかるいかんじのキョクもすきだったりする。わかいひとのあかるいキョクは、センチュウ、センゴとシダイにゆたかになったからであらうか、なんか「カクメイ」テキなきがする。もしかすると、センチュウをムシしているのかもしれない。たしかにニンゲンは、くらいひとより あかるいひとのホウがすかれるとおもうが、ブンミヤクをぬぎにあかるいというのはちょっとわからない。わかいひとは そんなにしあわせなのだろうか。わたしは、「カクメイ」というより「カイカクハ」かもしれない。

ヒャクナナジュウゴ

「いれずみ」というとこわかったりするが、「タトゥー」というとかるいかんじがするのだろうか。タトゥーをいれようとするひとがいたりする。サッカーの センシュなんかもいれずみをいれていたりする。ベツに わるいショクギョウではないとおもうがである。もともと「いれずみ」はわるいことをしたザイニンにいれたものであるが、サッカーのセンシュもなにかわるいのだろうか。よくかんがえてみると、あのキョウギはたまをける。たまをあいさずに けとばすような「ランボウ」をしているからだろうか。そうだとしたら、ビルをカイタイするギョウシャなんかも、いれずみをいれなくてはならないだろうが、まあいまのところ、いれずみをいれるのはショウスウハだ。

ヒャクナナジュウロク

わたしがわかいころには、「ゲンテンホウ」でものごとをみるくせがあった。もっとも、そうなるまでにはものごとをすることがかかせない。たとえば、あるシュルイのオンガクをききこむと、ひとつのそれと ほかのそれのちがいがわかってくる。その「ちがい」をもとにものごとをヒョウカするのである。あるラーメンテンのあじのヒョウカもそうだ。あるコウセイされるものちがいをもとにヒョウカする。タンジュンにいえば、ビールのメイガラにこだわるみたいなものである。「わたしは、ビーシャのビールがすきだ。」というやつだ。そのほかのビールは、「こくがすくない。」とかいって、ゲンテンヒョウカするのである。そうすると、のむビールがきまってくる。そういうことだが、サイキンは、カテンヒョウカするようになった。ビールをのめればうれしいからというのがひとつのリユウだが、ほかにもリユウがある。なぜかという、ゲンテンヒョウカできるほどタクサンをのんだわけではないからである。イチマンシュルイをのんで「サイコウ」のものをヒョウカしたわけじゃなく、どうせ たかだかゴシュルイのものをのんでえらんだ「サイコウ」のものだからである。ゴシュルイをのんだかもうたがわしい。つまり、ほかのひとにもツウヨウする「カガク」のようなものでなく、イッコの「このみ」にすぎないのである。ゴシュルイのビールをのんだだけで、「ビール」をえらそうにかた

れるほどはじしらずではないし、イチマンシュルイをのんで、それぞれヒョウカするほど「キリョク」も「ザイリョク」もない。だから、「サイコウ」のものからかたる「ゲンテンホウ」ではなく、それぞれのよいテンをヒョウカする「カテンホウ」にかわった。ひとのありかたも、「かくあるべき」というのがつよいと、ゲンテンヒョウカにつながりやすいが、「キョネンよりマルマルがジョウタツした。」とみれば、いやにならない。

ヒャクナナジュウシチ

ニホンのレキシキョウイクは、ゴウマンである。「えらいひと」をソクケイしなさいといたりもするのだろうにである。たとえば、「キョウシ」のことを「センセイ」とよばせたりする。ニホンゴでは「えらいひと」につかうケイショウであるが、チュウゴクでは、マルマルさんというイミである。これもケイショウである。それなのにもかかわらず、センゴクのよで、ゼンコトウイツまであとイッポでたおれた「おだのぶなが」コウには、「さん」も「コウ」もつけない。タブン、そのことをおしえるキョウシよりは「えらい」はずである。そういうところでキョウイクがシッパイするようなきがする。そのうち、キョウカシヨのまえがきに「ケイショウリヤク」とのるのだろうか。

ヒャクナナジュウハチ

ひさしぶりに「ふでばこ」をかっした。タブン、ショウガクセイだったころイライである。マンネンヒツをおくのにつかいたかっしたからだ。サイキンのは えがかいてあるものがおおいようだ。もっとシツソなものがほしかっしたが、えのイミがわかるひとつをかっした。ニダンにわかるそのジョウダンが インクビンをおくのにつかえるからベンリだ。しかし、サイキン、ふで（モウヒツ）をいれる「ふでばこ」はみかけないようなきがする。わたしがこどものときには、ふでとすずりをいれるはこがあった。サイキンはそれをつかわないのだろうか。

ヒャクナナジュウキュウ

「フォルダ」をつかうようになった。イゼンからあつたのだろうが、あるときまでそのソクザイにきづかなかつた。パソコンのガメンにヒョウジされるあれをみて、ゲンブツをかいにいったくらいだ。もっとも、あつかっているみせはすくないみたいだが。いろもパソコンでヒョウジされる あいろである。パソコンでは あれにもうイッコも ニコもいれられるが、ゲンブツではそんなゲイトウはできない。しかし、つかいようはあるのである。ミライのセダイでは、パソコンにヒョウジされるなにかをみて（ダストボックスもそうだ）、ほんものをすることもあるんだろう。ゲンにわたしがそうだった。

ヒャクハチジュウ

ここサンネン、ヒチリキ（コテンでつかうふえ）を シュセンリツでつかうオンガクをつくっていた。キョネンまでは ジッサイにはふかず、ほかのガツキのおとを それヨウにあてていたが、ことしにはいって、ジッサイにヒチリキをつかったキョクができた。それヨウにつくったのだから、それでいいはずである。しかし、そのキョクをヴァイオリンのおとのシュセンにして ならしてみると、それもまたいいのである。なにがしたいのかというと、そうやって「コテン」ガツキがすたれていったのではないかということ。ほかのガツキでそのキョクをひく（ふく）のなら、ニホンのコライのガツキであれば「コキウ」がいいかとおもう。しかし、それよりゲンダイでは フキウしている「ヴァイオリン」がえらばれたりするのだろうと。チュウゴクなら「ニコ」かもしれないが、やっぱりゲンザイのニホンだと、「ヴァイオリン」というきがしてならない。なぜなら「きもの」をきなくなってしまったから。まあ そうやって リュウコウはヘンカしていくのだろうと。ちいさなコジンによる レキシロンである。

ヒャクハチジュウイチ

ネンマツがちかづいてきた。サイキンではジュウニガツの キリストのタンジョウビも ひとつのもよおしをするひになっているのだろう。ケーキととりニクがよくうれるようだ。ジッサイに なにか おいのりのようなことをショミンがするわけではないようなので、タンに ショウバイジョウのトクバイびになっているようだ。わたしのいえでは、サイキンおせちリョウリをつくらなくなったようだ。そういういえもおおいのだろう。やっぱりおせちリョウリも トクバイしている。むかしはつくっていたが、どうもわたしは そんなにすきではなかった。それよりショウガツは「ぞうに」がたべられるのですきだ。もっとも いえでももちつきはしない。うすときねをかってもいいかなとおもうが、ひとりでもちつきができるわけではないので いまはかわないでいる。ネンマツのうたばんぐみも わかいひとばかりがでるのでたのしめるようなきがしない。こういうときにレンタルビデオやがやくにたつのだろう。

あとがき

キョネンのくれ（ホンができあがるころには、「おとし」になっているだろう。）にはじめてホンをだし、それから イチネンほどでニサツめのホンができあがった。まえまえから ホンをかくことにはキョウミがあったが、それをかたちにするまでサンネンイジョウまつことになり、キョネンによやくイッサクめができた。そのときは、かきじめてからイチネンハンほどかかったが、コンカイはイチネンほどでできた。いまのシッピツ

のペースも おなじくらいだ。いそいでかいてやろうとおもっていないし、いそぐヒツ
ヨウも なさそうだ。またこのズイヒツシリーズがかきあがるとしたら、ライネン（こと
し）のふゆごろなんだろうとおもっている。サイキンは、あまりあるいていないが、そ
ういうシゲキがかんがえにつながっていくと まだおもっている。そういうことをまたか
いていきたいとおもっている。

ヘイセイニジュウハチネン ふゆまえ

むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ
エイゾウ

ニセンジュウシチネンニガツココノカ
ニセンジュウシチネンジュウイチガツニジュウシチニチ
ニセンジュウハチネンサンガツサンジュウイチニチ
ニセンニジュウネンゴガツニジュウロクニチ

iii toga db002-3

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム
ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム

<http://eizo09.com>

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
